【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　四日市　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	人とかかわる力の育成	3
成果と課題	・核家族が多く兄弟の少ない家庭背景の中、入園時、集団生活が初めての幼児が多い。こうした幼児の実態から『人とかかわる力』を育てることを重点に取り組んできた。 ・日常の教育活動において生じる友だちとのかかわりや、トラブルなどは「人とのかかわり」を知る『学び』の機会ととらえ、４歳児はその都度知らせてきた。また、５歳児の後半は、クラスで考えるなど学級での学びの機会をつくった。子どもたちの生活の中での友だちとのかかわり方は、具体的な人とのかかわりの基礎となり育ちにつながってきた。 ・園外活動や行事などの機会をとらえ、いろいろな人とのかかわりを体験する中で、家族以外の人との「コミュニケーションの取り方」や「挨拶をすること」を知らせてきた。その場に応じた挨拶を教師から教えてもらい、友だちと一緒に経験する中で自ら挨拶をするよう促してきた。 ・保護者の評価について、『挨拶ができるか』の項目で、「そう思う」と回答した割合が昨年度の４５％から54%になり高くなっている。『人にわかるように話すようになった』という点では、昨年度よりもできていると評価しているが、『人の話を聴くか』については、昨年度の59%から42%へ評価が下がっているので今後も幼児の発達に合わせ、継続的に取り組んでいきたい。	

重点２	丈夫な体の育成	3
成果と課題	・市街地で生活しているため自然体験や歩く機会が少ないことから、園ではできるだけ戸外での活動や自然体験ができるよう積極的に取り入れてきた。「栗ひろい」など地域外へ出かける機会もあり、５歳児は歩く経験ができ自信につながった。行事だけでなく日常的に計画して取り組んでいきたい。 ・家庭と連携して、今年度も『早ね・早おき・朝ごはん』取り組んできた。生活リズムの確立にむけて、幼児にわかりやすいように保育室に生活リズムの表を掲示したり、ＰＴＡが中心になり、保護者向けに生活リズムの標語を毎月掲げ、おたよりなどで知らせたりした。その結果、9時までに登園することや、朝ごはんを食べてくる習慣は身についてきている。生活リズムのアンケートでは、冬になると起きる時間が遅くなったり、年齢に応じて寝る時間が遅くなったりしていることが明らかになっている。そのため、冬には、体操やマラソンなどを実施し、早く登園することや外遊びにつなげ、幼児の体つくりに努めてきた。 ・発達に合わせて運動遊びを取り入れ、幼児たちも意欲的に挑戦してきた。また、日常的に運動遊びを楽しむ姿が多くみられ、保護者の評価も９７％が戸外での遊び」や「体力がついた」と高く評価している。	

重点３	教師の役割、教育活動の充実	4
成果と課題	・教師は、日々の実践から幼児理解に努め、一人一人の発達課題に応じた援助を心がけてきた。今後も幼児が意欲的に遊べるような環境つくりに努めていきたい。 ・研修会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めることができた。また、研修での学びを園内で還流しあう機会をもち、教職員全体の意識を高めることができた。 ・職員は、年間1回は園外からの指導者を招いた公開保育を行い、研修の機会をもった。幼児の発達に応じた支援や活動の場面での適切な指導について考え、職員間で共通理解できた。今後も研修を計画的に進められるように工夫したい。 ・保護者アンケートの結果「園が好きで喜んで通園している」「生活や遊びが楽しい」の項目で肯定的な評価をした保護者は100%であった。今後も教育活動の充実を図り、幼児の発達に合った教材研究に努めたい。	

重点４	子育て支援の充実, 地域・家庭との連携	4
成果と課題	・日々の保育での出来事や幼児の成長などを送迎の際に丁寧に保護者へ伝えるようにした。保護者が安心して子育てができるよう機会をとらえていつでも相談できるようにしていきたい。 ・子育て支援活動の遊び会では、地域の協力を得て毎回多くの親子の参加があった。園内で開催していることから幼稚園教育を知ってもらう良い機会となっている。今後は、遊び会の充実を図るため回数や在園児との交流なども回数を増やしていきたい。 ・ホームページで、幼稚園の教育活動の内容や子どもの様子などの情報を発信することができた。 ・今年度も地域と連携した活動を積極的に行い、地域の幼稚園として親しまれ、幼児にとってもいろいろな体験や人との出会いの場となっている。商店街の笹飾りや「四日市まつり」「こどもの家まつり」など地域の祭りや催し等に親子で参加できた。 ・保護者主体の読み聞かせボランティアやＰＴＡ活動、人権教育講座など保護者の協力を得ることができ、このことは幼稚園教育の支えとなっている。 ・学びの一体化研修を軸にして、近隣の保育園、小学校、中学校との交流を深めることができた。	

２　改善方針

・幼児の一人一人の発達に合わせた教育活動の展開ができるよう、教師は、今後も一緒に遊び、生活する中で幼児理解に努めていく。その中で、発達課題を明らかにするとともに、教職員全体で共通理解を図って指導や援助をしていく。そのために、園内研修会の定例化など教育活動の工夫をしていく。

・幼児の体づくりを促すため、運動遊びを積極的に行えるよう一人一人の発達を分析し、遊び場が適切に設定できているのか検証する機会を作る。

・園外活動については、4歳児も十分にできるように年間計画に入れる。同時に幼稚園生活の中での発達を考慮し、学期ごとに見直しを行うことで各学年の活動が適切であるかを確認する。

・『人の話を聴く』ことについて、幼児にわかるような教師の話し方や表現方法について考えあう機会を作るため、公開保育を積極的に行い、園内外からの視点をふまえた研修を実施できるようにする。

・子育て支援の遊び会において、園児との活動を深めるような内容の充実を図るなど、遊び会指導員と幼稚園の教職員で共に取り組んでいく。

・園の教育活動や園児の様子に合わせ、保護者や地域に協力してもらえるよう家庭や地域に発信し働きかけていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　橋北　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	コミュニケーション力のある幼児の育成	4
成果と課題	・１学期は、自分の気持ちを上手く言葉で表現できずに困ってしまう幼児や、自分の思いを押し通そうとしてしまう幼児の姿が多かった。日々の保育の中で、友だちと気持ちを伝え合う機会をもち、自分の気持ちをどのように伝えていったら良いのかを幼児たちと考えていくようにした。そうすることで、自分なりの言葉で気持ちを伝えようとしたり、友だちの思いにも気づいたりする姿が増えていった。相手の話を聞こうとする姿も増えてきた。 ・親しい友だちには思いが伝えられても、全体の場ではなかなか自分の思いを表現できない幼児の姿があった。そのため、何でも言い合える関係づくりを進め、少しずつ全体の場でも自分の意見を言えるようになってきた。一方で、慣れていない環境や初めてかかわる人を前にすると、自分を出せなかったり、かかわりを避けたりする姿も見られる。これは、集団の少なさによる課題でもある。 ・毎日の挨拶の機会を大切にし、自分から挨拶ができる幼児の育成につとめたことで、教師や友だちだけでなく、中学生や地域の方にも自分から挨拶をしようとする幼児の姿が増えた。	

重点２	幼児の姿、発達に応じた異年齢交流保育の工夫	3
成果と課題	・全職員が全園児の事をそれぞれの立場や見方で捉え、それを日常的に伝え合ったり、どうしていくと良いかを具体的に話し合ったりしたことで、一人一人に応じた丁寧なかかわりができた。 ・異年齢でのかかわりを大切にしていく中で、幼児が互いに刺激を受け合い、成長していく姿が明確に見えた。５歳児は年長児としての意識や責任感を持つことができた。また、４歳児は年長児への憧れの気持ちを持つことができた。発達に応じた各学年別の活動を保障していくことの大切さも感じ、活動内容を考えてきた。しかし、４歳児３名の“集団生活の中で育つ力”がつきにくくなってしまうという課題があり、異年齢での活動と各年齢別の活動のバランスの難しさを感じた。	

重点３	市内の幼稚園、地域の保・小・中や地域との交流	4
成果と課題	・保育園との交流を月1回していく中で、幼児同士親しみを持ち、交流を楽しみにする姿があった。来年度こども園になることを踏まえ、４歳児の交流も増やしたことで、４歳児も保育園児と顔見知りになり、こども園に行くことへの期待をもつことができた。 ・5歳児が老人施設を2か月に1回訪問することで、お年寄りに楽しみにされていることを感じることができた。いろいろな方の存在を知ったり、愛情を受けたり、役に立つ自分を自覚できたり、幼児にとって大きな育ちの意味があった。 ・小学校や中学校の行事に招待してもらったり交流を持ったりすることで、学校への親しみを持つことができ、自分たちの将来の姿を見通すことができた。行事後に、小中の先生方との反省会の機会をもつことができなかったのが課題である。 ・どろんこ遊びや大人の小学校、焼き芋大会等、地域の方とふれ合ったりかかわったりする機会を作ったことで、地域の方々のあたたかさを感じ、いろいろな人とかかわる力が育った。	

重点４	子育て支援活動の充実	4
成果と課題	・未就園児と４歳児の交流の機会を多く作っていくことで、４歳児が未就園児に思いやりの気持ちをもってかかわっていこうとする姿が見られた。 ・サマーキッズデー、クリスマス会、ミニ発表会等、５歳児が未就園児のために出し物やプレゼントを用意したりする機会を作ったことで、“小さい子に喜んでもらえた”という嬉しさを感じ、年長児としての自信にもつながった。また、保護者の方にも園を知ってもらう良い機会となった。 ・幼児の姿をおたよりやホームページを利用して積極的に知らせ、家庭でも共に触れ合うことを呼び掛けてきた。幼児の成長の姿を共に喜び合いながら、啓発や子育て相談に応じていけるように、情報発信の方法を工夫していきたい。	

２　改善方針

・少人数保育の良さを活かし、一人一人にじっくりとかかわり、幼児たちが自己を発揮できるように保育をすすめていくことができたと感じる一方で、４歳児３名の“集団生活の中で育つ力”がつきにくかったことが課題であった１年だった。少人数保育の中で培ってきた力を、こども園（大きい集団）の中でも発揮していけるようつなげていきたい。

・来年度はこども園になり、中学校との距離も離れてしまうが、できる限り交流の機会を引き継ぎ、つながりを大切にしていきたい。学びの一体化の場等を通して、小中学校との交流の機会を検討していく必要があるように感じる。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　富田　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な体づくりの推進	3
成果と課題	・鬼遊びやリレーごっこ、ボール遊びなど、教師も積極的に子どもたちと遊び、体を動かして遊ぶ心地よさを十分に味わえるようにしてきた。自ら選んでする活動だけでなく全体活動にも、固定遊具や巧技台を使ったサーキット遊びを意識して取り入れ、どの幼児も全身を動かして遊ぶ機会が持てるようにしてきた。友だちと一緒に遊ぶ経験を通して、次第に自分から体を動かして遊ぶ幼児が増えた。また、体のバランスをとったり、手足をうまく使ったりして遊べるようになってきた。 ・徒歩通園をしている幼児が多いものの集団で歩く経験が乏しく、幼児の歩くペースも様々である。昨年度より園外保育の回数は増えたが、今後は更に回数を増やしていき、体力づくりにつなげたい。また、集団で歩く経験を通して、交通ルールなどの意識が高まるようにしていきたい。 ・園内の畑で野菜を育てたことで、苦手なものを食べてみようとする姿につながった。５歳児はクッキングを経験したり、給食に入っている食材を話題にしたり、調べたりしたことで、食べ物への関心を深めることができた。 ・挨拶は相手の顔を見て行うようにしてきたことで、自分から挨拶できる幼児が増えた。幼児の中には生活習慣が乱れがちな幼児もおり、今後も保護者と連携を取りながら生活リズムが整えられるようにしていきたい。	

重点２	家庭・地域との連携を図り、地域に開かれた園づくり	4
成果と課題	・地域ボランティアの方による絵本の読み聞かせ・素話は、子どもたちが毎回楽しみにしている姿がある。回を重ねる毎に、ボランティアの方に自分から話しかける姿も多くみられるようになった。それ以外にも、鯨船の祭りの練習や木工教室などがあり、地域の方との出会いを通して自分たちが大切にされていると感じているようだった。今後も引き続き地域の方々との連携を少しでも多く取り入れていきたい。 ・月１回、親子で絵本を借り、好きな絵本を親子で楽しむことで、親子同士の会話が広がるきっかけになった。また、クラスの人気の絵本をおたよりで紹介すると、保護者も絵本に興味がもてる機会になった。しかし、当初予定していた親子絵本の日に、クラスで取り組んでいる手遊びやふれあい遊びを紹介する機会を設けることが難しかった。紹介したい遊びを１回につき１つなど決めて取り組んでいくと、家庭での会話やふれあいにつながる。 ・家庭との連携では、日々の園での姿を保護者に伝えながら、共に子育てについて考え合うようにしてきた。お便りは幼児のつぶやきや写真を用いて具体的に園での様子が伝わるようにした。写真掲示はお便りのみではなく、定期的に掲示するなどして、より伝わるようにした。	

重点３	「学びの一体化」を生かした教育の推進	4
成果と課題	（園児） ・中学生の職場体験で来てもらったり、小学校５年生・１年生との交流をしたことで、あこがれの気持ちや小学校への期待を持つことができた。 ・保幼交流では、一緒に鯨船の練習やリレーごっこをしてお互いに刺激になった。 ・専門機関の先生にもたくさん見に来ていただき、子どもに合った支援の手立てを工夫することができた。 ・小学校の栄養教諭による食育授業は、幼児に合ったねらいが明確でよかった。授業後も学んだことを生かせるよう、保育の中に食材についての教材を取り入れたりした。食育についての興味・関心を深める事が出来た。 ・保育園や小学校との交流を重ねていく事で、子どもたちが場所が変わっても安心できる機会になっていくと考える。 （職員） ・保幼小中の公開授業を見に行く機会が多く、小学校や中学校での学びから幼稚園でつけておきたい力、経験したい事柄を考えることができた。 ・就学前と就学後の学ばせ方の違いがある。できるだけ幼児が無理なくスムーズに小学校に慣れ親しんでいけるように、互いの生活の仕方や決まり事や考え方など、知り合っていけるようにしたい。就学後の子ども達の様子について、交流できる機会があると、更にお互いの理解が深まると思う。	

２　改善方針

（重点１）園外保育を取り入れることで、幼児の体力づくりだけでなく、交通ルールを学べる機会にもなる。行事との日程調整をしながら、園外保育を更に充実したものにしていきたい。
（重点２）地域の方々との触れ合いを通して、自分が大切にされていると感じ、自尊感情が持てていくと考える。今後も地域の方とのつながりを大切にしていきたい。家庭との連携についても、送迎時での会話など日々の積み重ねを大切にし、共に子育てを考え合っていけるような基盤を作っていきたい。
（重点３）次年度も今までの交流・研修を続けていき、各校園のお互いの学び方について交流し合えるようにしていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　海蔵　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康なからだづくりの推進	4
成果と課題	○テラスでのトランポリンやミニサーキット、ホールでの大型サーキットでは様々な動きを取り入れることができ、一人一人の運動能力の向上につながった。しかし、昨年度に比べ活動の割合が少なかったので、年間を通して計画的に行えるとよかった。 ○教師が率先して戸外に出ていき、鬼遊びやボール遊び、固定遊具、縄跳びなどをすることで、幼児も楽しんで取り組むことができ、体を動かして遊ぶことが好きな子が増えた。 ○収穫祭で、園で育てた野菜を使ってクッキングすることにより、食べる楽しさや意欲が高まるとともに食の幅も広がってきた。また、いつも自分の食事を作ってくれる人や食べ物に対する感謝の気持ちも育った。 ○健康や体に関する絵本を読んだり、ポスターを貼ったりすることで、自分の体に興味を持ったり、健康な生活を心がけるようになった。 ○食育活動についての家庭との連携や、アンケートやたより等を用いての啓発が例年に比べて不十分であった。家庭とともに考えられるような工夫が必要である。 ○年少児が園外に出る機会が少なかった。今後、地域への散歩など、園外保育を増やしていくことで、体力や歩く力をつけていきたい。	

重点２	コミュニケーション能力の基礎の育成	3
成果と課題	○幼児が気持ちよく登園できるよう、教師自身が笑顔で元気よく挨拶することを心掛けてきた。また、日常の会話の中のお礼や挨拶が心から言える幼児を認め、褒めていくことで、他の幼児も場に応じたお礼や挨拶が自然とできるようになってきている。 ○自分の思いを言いたい気持ちが強く、教師や友だちの話がなかなか聞けないのが課題である。人の話をしっかりと聞くことの大切さをその都度伝えるとともに、教師自身も子どもの声をしっかりと聞き、ていねいに答えるよう心掛けた。落ち着いて話が聞けるような指導の工夫を園全体で考え合えるとよかった。 ○幼児が遊びの中で、どのようにコミュニケーション能力を培っているか、また、より力をつけていくためにはどのような環境の工夫が必要かなど、園内研修で学んでいけるとよかった。	

重点３	保・幼・小・中・地域との連携	3
成果と課題	○保育園交流の中で、進学先別のグループでの活動を多く取り入れたことは、就学後の仲間づくりにつながっていくと感じた。また、小学校での給食体験や2年生との交流会は、就学への不安を取り除き、より期待ができる取り組みであった。 ○朝鮮幼稚園との交流では、互いの国や文化について知る良い機会となった。一緒に遊んで楽しかったという経験が、将来、理解し合いつながりあえるきっかけとなるよう今後も続けていきたい。 ○地域の方々との行事、老人福祉施設への慰問などを通して、ふれあい、つながることができた。また、老人会の畑での苗植えや収穫、セーフティネットの活動等では、地域の方々に温かく見守られ、協力していただいていることを感じた。 ○園外保育にもっと出かけ、地域の地場産業にふれたり、自分たちの住んでいる地域をもっと知ることができるとよかった。 ○今年度より、学びの一体化研修で公開保育を行い、事後研修を行ったことで、小中の職員にも幼児教育で大切にしていることを知ってもらうことができた。	

重点４	子育て支援の充実	3
成果と課題	○遊び会に来ている保護者や子どもに積極的に声をかけたり、在園児とも自然な形で交流できるようにしてきた。顔見知りの先生や友だちがいることで安心して入園できることにつながればよい。指導員さんにはたくさん工夫をしていただいているが、年々参加者が減ってるので、もっと在園児との交流の回数を増やしたり園行事への参加の機会を設けるなど、園としての工夫もできるとよい。 ○園児の保護者にも、相談しやすい雰囲気づくりや、保護者の気持ちを受容し、安心感が持てるよう努めてきた。しかし、ほとんどの保護者には安心感や理解を得られたが若干名の保護者には十分と言えなかった面があるのも事実である。さらなるていねいな聴き取りと対応が、今後の課題となった。また、保護者同士のトラブルもあり、保護者支援の難しさを感じた。保護者同士が互いに知り合い、つながれるような交流の場を工夫していきたい。	

２　改善方針

・栽培活動、食育活動の年間計画をしっかりと立て、それに基づいて栽培活動をしていく。

・日々の幼児の姿や変化を保護者にしっかり伝えていき、必要に応じては家庭訪問も行っていく。園での取り組みや活動のねらい、そこで育ってきたことなどを、その都度わかりやすく保護者に発信していく。

・保幼小中の子どもの実態から、課題や将来つけたい力を明確にし、一貫したカリキュラムが作れると良い。そのためにも、幼児教育の大切さをきちんと説明できるよう、園内研修を十分に行い、一人一人の職員の資質の向上に努める。

・1年生との交流ができないか、学びの一体化を通して小学校に働きかけていく。

・子どもの実態・様子・課題・保護者支援についてなど、職員間での情報共有をより密に行っていく。その中で、保護者の理解や安心を得られるように、傾聴と説明をよりていねいにする。

・年間の教育計画や目の前の幼児の課題から、その年度に特に重点的に行っていくことを決め、テーマに沿ったねらいを明確にした園内研修を計画的に行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　泊山　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びを通しての「学び」の充実	3
成果と課題	○職員間で幼児につけたい力・体験させたい活動について十分に意見交換し、ビジョンにも具体的に挙げ、一人一人の経験や持っている力の把握に努め、個々に合わせた指導計画を立てて指導に当たった。しかし、広い園庭の有効利用や固定遊具と移動遊具をうまく組み合わせてのサーキット的な場の設定が不足していた。子ども達がわくわくドキドキして動き出したくなるような魅力ある環境づくりに向けてより一層の研修を積んでいきたい。 ○園外保育や自然を取り入れた保育は徐々に充実してきている。また、体験したことを知らせ合い、考え合ったり、調べたり、継続して観察することも多くみられとても良いと感じた。栽培と連動した食育活動も軌道に乗りつつあり、子ども達の興味・関心も増し、意欲的に活動する姿が見られるようになってきている。 ○食育についてはボードや食育だより、ホームページを利用した家庭への発信を続けたことが家庭教育につながった。今後は家庭と連携を取り合っての食育活動の充実に向けてより具体的な活動計画を立てて教育を進めたい。 ○遊びを通しての「学び」の充実に向け、職員集団も刺激を受け合い、研修を重ねているが、今後は還流報告や実践検討を通してより「学び」が深まるように研修計画を工夫し、時間の確保をしながら研修を進めたい。	

重点２	人権の視点を明確にした保育内容の充実	3
成果と課題	○今年度は四同研の提案に向けた実践討議を重ね、自分の思いを出し合い研修し合う中で互いの人権感覚を高め合うことにつながった。自分自身の保育や生き方の振り返りをしたことで、保育にも幅ができたと感じる。 ○日常の保育の中で起こった問題を保育後に話し合ったり、情報交換したりしながらそれぞれが共通認識を持って保育にあたってきたことが一人一人の成長発達を促す上でプラスに働いた。 ○地域との問題や保護者同士のつながり、個人情報の取り扱いについてなど定期的に話し合い、皆の認識にずれがないかを確認し合い、協力し合って進めてきたことで、地域、保護者の理解も進みつつある。今後は地域や関係機関も交え、職員とともに話し合いをし、子ども達の安心と安全を守っていけるように継続的に取り組みたい。 ○子どもを中心に据え、子どもの幸せと成長を第一に考え保育を展開してきたことで、様々なことを考える機会が増え、相手の立場に立って考えることの大切さや難しさを感じながら協力し合って前に進んでいくことができた。 ○地域に開かれた幼稚園をめざし、今後も地域の関係諸機関と継続的に連携を取り合いながら教育を進めていきたい。職員間で常に話し合い、共通認識を持って問題に取り組むとともに、難しいと感じた時には早めに関係機関と連携して教育を進めるようにしていきたい。	

重点３	保護者連携を密にした子育て支援の推進	3
成果と課題	○保護者の立場に立って思いや考えを聴きとり、背景を知っていくことが子ども達の成長・発達を促す上では必要不可欠である。そのうえで指導計画を立て、保育を進める必要がある。子どもの経験不足も目立ってきているので個々の育ちを明確にし、その子に合った指導計画を立てることが必要である。 ○集団生活や幼児期につけたい力を保護者にもわかりやすく知らせるとともに、幼稚園での指導の方法も具体的に知らせながら連携を取り、双方で同じ願いを持って子育て、保育にあたっていけるようにしていきたい。 ○基本的生活習慣や生活リズムについても、園での取り組みを具体的に知らせながら協力を得ることで少しずつ身に付きつつあるので、今後も継続しながら、おたよりや参観を通じて具体的な取り組み方を知らせて力がつくようにしていきたい。	

重点４	地域や地域の保育園・小学校・中学校との連携の充実	3
成果と課題	〇防災の観点からも避難経路の確認や地域との申し合わせが必要と考え、連携を取り合うようにしている。中学生の職業体験の日などと重ね、第2避難場所の南中学校への避難訓練を実施するなど工夫をした。今後も連携を取り合い、地域とともに意識を持って取り組むようにしたい。 〇5歳児は保幼交流を定期的に行い、同じ地域で育つ幼児同士が遊びを通して交流することができた。また、同じ小学校へ進学する幼児を知り、遊びを通して交流することができた。 〇学びの一体化などで連携した給食体験、プール体験なども定着してきている。今後は学びの繋がりを縦の連携の中で明確にし、一人一人の幼児の確かな成長と学びの保障につなげていく。そのために授業公開へ積極的に参加し、振り返りをカリキュラムに生かすなど工夫を重ねていく。また、研修の中で『つながりシート』をより多く活用し、幼稚園での『あそびの中での学び』の保育を明確に伝えながら、校区スタートカリキュラム作成に向けて取り組みを進めていきたい。 〇保幼の職員交流を積極的に取り入れたり、地域への公開保育を定期的に行ったりする。園外の声を、保育に反映することでより保育の幅を広げていくようにしたい。 〇主任児童委員と連携を取り合い情報共有を図ることでより保育を円滑に進めたい。	

２　改善方針

〇広い園庭をより機能的に有効に使えるように移動遊具の使い方や組み合わせについて研修を深め、魅力ある環境構成づくりをしたい。教材研究や公開保育などの研修の機会を有効に活用し力をつけていく。
〇きめ細やかな幼児の内面理解を目指し、丁寧な記録を取り、それを園内研などで互いに提案する。皆で分析しあうことで共通認識を図ったり、より多くの目で多面的に見たりすることで幼児理解が深まるような工夫をしたい。
〇月に1回の実践検討、2か月に1回の還流報告の時間を確保し、研修が進められるようにしたい。
〇学期に1回、年間3回の保育公開（地域を含む）の定着に向けて計画を立てたい。
〇個人情報の管理や幼児の背景についても変化があるたびに全職員が共通認識をする場をもつ。一人一人の幼児が安心して、安全に園生活が送れるように保護者・地域・関係諸機関とも連携を取り教育を進めたい。必要に応じてマニュアル作成もしていきたい。
〇地域の自然を生かした教育や栽培と連動した食育が定着してきているので、今後も幼児たちの気持ちに寄り添い、家庭とも連携しながら活動を推進していきたい。
〇報告・連絡・相談ができる職場の雰囲気づくり、心に少しでも余裕が持てるような気配りが互いにできるように時間的余裕が持てる仕事の進行を心がけていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　内部　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体の育成	3
成果と課題	〈成果〉 ・基本的生活習慣の大切さを日々の保育や長期休業中に繰り返し伝えてきたことや家庭での取り組みを発信してきたことで、生活習慣が身についた。 ・野菜の栽培や収穫など地域の方の協力を得て、計画的に実施し、子どもたちにとって貴重な体験の場を設けることができた。 ・戸外で積極的に体を使って遊ぶ姿が増え、体力もついてきた。 〈課題〉 ・基本的な生活習慣は、家庭によって意識の差もある。今後も個々に声をかけ、子どものために一緒に取り組んでいきたい。 ・今後も畑の世話、草抜き・水やりに意識をもち、子どもたちと一緒に畑に行くことで、食への関心が高められるようにしていく。 ・地域の自然豊かな場所に出かけることができ、歩く力もついてきたが、異年齢で出かけることが少なかったため、園外保育の計画を工夫したい。	

重点２	コミュニケーション力の育成	3
成果と課題	〈成果〉 ・楽しいことや嬉しいことなどをともに感じ、心地よい雰囲気を味わうことで、自分の思いをことばで伝えられるようになってきた。 ・友だち同士で自然に名前を呼び合い、「おはよう」と挨拶する姿が増え、挨拶の心地よさを実感できるようになった。 ・はげまし隊の方に親しみをもち、ふれあいを楽しむ姿が増えた。 〈課題〉 ・自分の思いを出せるようになってきたが、会話の中で自分の思いを主張しすぎ、友だちや周りの人の話を聞くという意識が薄い姿もみられる。話を聞く力をつけていきたい。 ・園内と同様に園外でも自然に挨拶ができる子どもを育てていきたい。挨拶をする意味や心地よさを伝えていく。 ・幼稚園の教育に地域のはげまし隊の方が協力していただいていることを今後も保護者に発信していきたい。	

重点３	学びにつながる意欲の育成	4
成果と課題	〈成果〉 ・様々な生活経験を再現できるような遊びを通じ、自分の考えをいろいろな姿で表現するようになった。一人一人の姿を受け止め、その姿に応じたかかわりを考え、一緒に遊びを楽しんできたことで、自分から意欲的に遊ぶ姿に変わってきた。 ・一人一人の遊びをよく見て、環境構成を工夫してきたことで、興味・関心が深まってきた。また、試したり、工夫したりするようになった。 ・特に、異年齢でよく遊ぶようになり、憧れの気持ちが育ってきた。また、教師同士も保育室や園庭で幼児同士のかかわりを通して環境構成を工夫し合うようになった。 〈課題〉 ・遊びの中にどのような学びがあるのか意識してかかわることが大切である。保育のねらいを明らかにしていく。 ・研修報告を園内で共有し、今後の保育に活かしていく。また、実践事例を通した園内研修を実施して、子どもの見方、指導のあり方等について考えを深めていく。	

重点４	保護者・地域との連携・協働	4
成果と課題	〈成果〉 ・保護者とのコミュニケーションをとり、園での姿を伝えることで、安心して通園する姿が見られた。子どもの育ちを話し、子どもを中心に一緒に考えていけるようになった。 ・保護者や地域の方がとても協力的で、特に行事を通した子どもたちの姿がいきいきしている。 〈課題〉 ・今後も保護者とのコミュニケーションをとる時間を大切にし、一人一人の子どもの様子を丁寧に伝えていきたい。 ・幼稚園で大切にしていることをわかりやすく伝えることが必要である。	

２　改善方針

〈重点１〉
・保護者とともに、どうして基本的生活習慣が大切なのかを話しながら一緒に子どもの生活を考えていきたい。
・戸外遊びを中心に体づくりを意識し、教師も一緒に体を使って遊びを楽しみたい。また、園外へ出かける機会をさらに多く持ち、歩く力もつけていきたい。引き続き、徒歩通園も推進していく。
〈重点２〉
・挨拶をする心地よさを園内だけでなく、家庭や地域でも感じられるようにしていきたい。教師自らも挨拶の姿勢を振り返り、挨拶する気持ちよさやことばによる伝えあいで友だちとつながっていく経験をさらに増やしていきたい。
・話を聞く力を身に着けていきたい。子ども同士が伝え合うためにどのようなかかわりが必要かを明らかにしていく。
〈重点３〉
・園全体で子どもの姿を共有し、かかわり方や子ども理解を職員で考え合い、一人一人を大切にした保育を引き続きすすめていく。
〈重点４〉
・地域との交流が増えるように地域の自然、文化、行事、人々の力などを知る。
・保護者との連携について、ボードやたよりなどで子どもの姿をわかりやすく伝えるための工夫を考えていく。遊びの中に学びがあることをさらに発信していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　川島　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	様々な体験を通して、自分で考え行動する力や、人とかかわる力を育てる。	4
成果と課題	◎成果・・・保護者評価「相手に分かるように話したり表現するようになった」のＡ評価46%、「自分で考えて行動する」のＡ評価54% 〇年間６回(講師招聘）の事例検討をおこなった。「居心地の良いクラス作り」という視点で、課題を共有し、一人一人の幼児の気持ちを受け止めるよう努めた。自分の思いを言い、友だちと折り合いをつけられるようにかかわった。 〇自分の素直な気持ちを出しにくい場面や相手の気持ちを考えずに行動する場面が見られたときは、幼児同士の話し合いを大切にした。その結果、相手の気持ちを受け止めて接する姿や幼児同士で問題を解決しようとする姿が多く見られるようになった。 〇主体的な遊びや、考える場面を大切にして環境設定や支援を行ってきた。自ら選んでする活動や、運動会、発表会に向けての活動の中で意欲的に活動した。4歳児は、自分の想いやイメージが表現できるようになり、5歳児は、思いやイメージを出し合いながら、友だちと協働して活動するようになった。 ◎課題 〇気持ちが切り替えられなくて他児と折り合いが付けにくい幼児もいる。原因を早期に見極め、一人一人に合った支援を考えるとともに、職員間の共通理解のもと取り組んでいきたい。 〇自分で考える力もついてきているが、失敗することがいけないことだと感じている幼児もいる。失敗は成功のもとということを園生活のいろいろな経験や場面を捉えて今後も保育していく必要性がある。 〇個々の幼児のカンファレンスを日常的に行ったが、環境設定や、一人一人の力を伸ばす支援の仕方についての園内研修がもう少しあるとよかった。	

重点２	基本的な生活習慣を身に着け、健康な体作りをする。	4
成果と課題	◎成果・・保護者評価「戸外で遊ぶことが好きになった」「体力がついた」「嫌いなものでも食べようと努力するすがたが見られる」のＡ評価がそれぞれ74%・60%・50%であった。 〇毎日、少しでも楽しく体を動かす活動を取り入れるように心がけ、発達に促した遊びを提案したり、幼児の興味に合わせて環境を整えたりすることができた。年度当初、遊戯室に、幼児が興味を持ちそうな「サーキット遊び」を設定したことで、幼児自ら体を動かす遊びを楽しんだことが、その後の体つくりに発展していったと思われる。 〇4歳児は、楽しく体を動かして遊び、繰り返し楽しむ中で体力、意欲が向上した。また、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、友だち関係も広がっていった。 〇5歳児が、体を動かす様々な活動に楽しく意欲的に取り組めるように、一人一人の幼児の意欲や到達度に合わせたスモールステップの支援をした。幼児に「やりたい」「できるようになりたい」という気持ちが育ち、竹馬や鉄棒、跳び箱、鬼ごっこ、ボール遊びなどに自分なりの目標を持って取り組んだり、友だちとの協働する姿が見られた。 ◎課題 〇うがい、手洗い、挨拶などの生活習慣の定着が低い。少数だが、Ｃ評価の保護者もいる。園では身についているように見えても、家庭ではできていないこともある。保護者の子どもへの接し方など、家庭とともに取り組むための啓発をさらに工夫する必要である。 〇徒歩通園を呼びかけて、子どもたちが歩くことに意識を向けられるように配慮してきたが、家庭との連携に課題が残る。 〇体幹がしっかりしていない、ボディーイメージが持ちにくい、体を動かすことが苦手という幼児に対して、体をほぐす動きと、筋力をつける動きを組み合わせるなど支援の仕方を工夫する。1日5分でも体を動かす活動を継続して取り組むよう意識する。 〇園外保育は、地域の方に教えていただいて新しく行った場所もあったが、園内事情や天候の関係もあり、昨年度より実施数は少なかった。気軽に出かけられる散歩のような活動を増やすために、地域の方との連携を深めていきたい。	

重点３	家庭や地域との連携を深め、教育内容に反映し、その充実を図る。	3
成果と課題	◎成果 〇家庭訪問、懇談会、送迎時やふれあいタイム（14：30～15：00）を活用し、保護者に幼児の様子を詳しく話すことで、家庭での様子や、保護者の悩みを聞き、子育てについて一緒に考えることができた。 〇個別懇談会では、ふれ合いタイムでは聞けない、保護者が気になっている子どもの様子や子育ての悩みにについて話しあうことができた。 〇毎日、その日の活動やねらいなどをホワイトボードに書いて知らせたり、写真を掲示することで、より詳しく幼児の姿を伝えることができた。 〇園外保育をカリキュラムに位置づけ、地域の方の協力で、豊かな体験ができた。 〇安全教育については、年2回の引き渡し訓練や災害伝言ダイヤル試聴をしたり、地域の防災アドバイザーや危機管理室から来ていただき、ＰＴＡ防災教室に取り組んだりして、防災への意識が高まった。 〇絵本に親しむ活動の一環として、親子での絵本選びや保護者が絵本を選ぶ活動をおこなった。 親子で絵本を楽しむことが増え、保護者も絵本に興味を持つきっかけとなった。 ◎課題 〇年度当初の幼児の姿からすると、園児の大きな成長を感じるが、保護者評価は、思っていたよりも低い。教師と保護者で、子どもの見方にずれがあるのではないかと思う。教師の思いや、子どもの姿から課題に思うことが十分伝えられなかった保護者もいる。教師の思いを伝えていくだけでなく、保護者が自信をもてるような言葉がけを考慮していくことで子どもたちの自尊感情を高めることにつながっているという事を今後も意識していきたい。 〇園での遊びの中での学びについての「ねらい」を保護者に理解できるような伝達方法を工夫していきたい。 〇一人一人の保護者に応じた言葉がけを工夫し、幼稚園と家庭で連携を密にして話しかけるきっかけを逃さないようにする。 〇今後も地域の力をもっと活用できるようにしていきたい。	

２　改善方針

〇年齢や一人一人の発達課題にあったより良い保育ができるように具体的な保育内容について話し合いを深めていく。
〇職員間が、さらに共通理解を深め、連携し合いながら保育できるよう、定期的、計画的に打ち合わせをおこなう。自ら選んで行う活動のさらなる充実をめざす。また、聞くことの大切さや、気持ちが通じ合う喜びを感じられるように、一人一人の個性や生活背景を把握する。そして、援助の仕方を具体的に話し合って、実践、評価する。
〇基本的生活習慣が、きちんと身につくように、その家庭にあった具体的な方法を啓発して、連携を強めて取り組んでいく。
〇保護者との連携では、保護者に十分に伝えられていない部分もあったので、保護者の思いを受け止めながら、教師の思いを伝えていくことをよりきめ細かにしていく。活動の意図を理解してもらいにくい保護者や、教師に声をかけたくてもかけられない保護者へは、特に意識してかかわりを持つようにしていく。
〇情報化社会で保護者のニーズも様々であり、各家庭の価値観も幅広くなってきている。その中で幼稚園活動にどのように協力していただくか今後も課題ではあるが、職員間の連携が一層強化していくことが大切である。
〇地域の力を活用した活動をもう少し入れ、教育課程に位置付けたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　神前　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体を育む	4
成果と課題	・健康な体づくり、体力向上を目指して、戸外遊びの環境構成を工夫した。マット、トランポリン、移動鉄棒などを使って、遊びの中で体力づくりができるようにした。また、教師が鬼ごっこやドッジボールなどを一緒に楽しむことで、初めは室内で遊ぶことが多かった幼児も楽しさがわかり、身体を使って走ったり、投げたりして遊ぶ姿が増えた。 ・固定遊具やなわとび、竹馬など、苦手意識を持っていたり、初めてのことには意欲が持てなかったりする姿があった。そこで、がんばり表を作ったり、個別に根気よくはげましたりかかわることで、少しずつ自信や意欲を持って取り組むようになった。また、友達同士刺激し合ったり、励まし合ったりする気持ちも見られるようになった。 ・遊びや生活の中で、気になる行動がある時、その行動面だけでなく、“なぜその姿になるのか”ということを職員間で話し合ったり、保護者と考え合ったりするようにした。 ・毎月の収穫祭で食べ物とかかわる機会を作ったり、週2回の給食では、みんなと同じ物、様々な食材に触れる機会を作ったりしたことで、4歳児は食べられる種類や量が増え、たくましさが感じられるようになった。5歳児は、偏食の幼児が多いが、食べてみようとする意欲や態度は少しずつ育ってきた。	

重点２	コミュニケーション力を育む教育実践	3
成果と課題	・その時に感じた様々な思いや、伝えたい気持ちを、まずは教師がしっかりと受け止めるようにかかわってきたことで、自分の思いを言葉で表現する力がついてきた。しかし、表現が未熟な部分があり、一緒に遊びたい気持ちを素直に表現できずにいる場面もあるので、今後も教師が援助していく必要がある。 ・5歳児では、今日楽しかったことを自分なりに発表する機会を作ったことで、自分のことを伝えることができるようになってきた。また、友達と同じ思いだった時、違う時にもそのことを友達に伝えることができるようになってきた。 ・当番活動では、同じグループで一週間取り組み、幼児同士が思いを出し合い、話し合う場面を大切にできた。トラブルが起こっても意見を出し合い、話し合うことができた。 ・挨拶を気持ちよくできるように、教師からも積極的にするようにしてきたが、はずかしさからか、定着にまでは課題が残った。今後はさらに保護者にも啓発をしながら取り組んでいく必要がある。	

重点３	人権・同和教育の充実	4
成果と課題	・一人一人が大切な存在であることが伝わるように、教師が丁寧にかかわるようにしてきた。一人一人の感じ方は様々なので、その都度その一つ一つを大切に受け止め、周りに伝えるようにかかわった。自分の思いをあまり出さずに様子を見たり、友達に合わせたりしていた幼児も少しずつ自分らしさが出せるようになってきた。 ・遊びの中で自分の思いを通そうとしたり、一緒に遊びたい気持ちを素直に表現できなかったりすることで、友達を叩いたり怒って物を投げたりすることがあった。そのことで、周りの幼児が遊びに入れなかったり、逃げてしまったりすることがあった。その都度、お互いの気持ちを引き出し伝える援助を心掛けているが、課題は残る。 ・5歳児は友達と思いが違ったとき、「わかってくれない」「違う」ということで終わってしまうことがあった。「なぜそう思ったのか」「どうしてそう考えるのか」をその時々で幼児の思いにしっかりと耳を傾け、それを周りの幼児に伝え考え合えるような援助を心掛けた。自分達で解決していくという部分では課題も残る。 ・職員間のつながりの面では、何度も園内研修を重ね、自分の思いを伝える大切さを学んだ。また、保護者懇談会を保護者と一緒に企画し、一緒に考え合えたことはよかった。	

重点４	家庭や地域とともに進める教育活動の充実	4
成果と課題	・地域の人とのかかわり（こどもバザー、感謝祭など）や、地域と連携した豊かな活動（畑の活動、みかん狩り、絵本の読み聞かせなど）を通して、「人とかかわる力の基礎」を育むことができた。 ・園ホームページ、園だより、クラスだより、保護者参加の行事にパワーポイントで、幼稚園教育について家庭や地域に発信することができた。たよりでは、幼児の姿だけでなく、なぜその姿があるのか、どうしてその力が育ってほしいのかについて具体的に知らせるように心掛けた。今後は発信で終わるのではなく、そのことについて保護者と話し合えるようにしていきたい。 ・日々の送迎時に、保護者と家庭や園での様子を伝え合い、一緒に幼児の育ちの悩みを共有したり、成長を喜び合ったりすることができた。また、気になる姿があったり保護者の不安があったりしたときは、話し合いの場を設け、思いを聞いたり支援方法を話し合ったりすることができた。	

重点５	共に育ち合う教育実践の充実	4
成果と課題	・混合保育の中で、4歳児が5歳児に憧れの気持ちを持ち、5歳児が4歳児に対して優しくかかわる姿も見られるようになった。しかし、各年齢に合った、発達保障の面では難しいところもあった。混合保育の在り方については今後もその時々で職員間でしっかりと話し合っていく必要がある。 ・個別の支援計画を作成し、実践したことで、集団の中で友達と楽しく遊んだり過ごすためには、ルールや決まりを守ることが必要であることを、幼児、教師共に学ぶことができた。幼児が自分からルールを守ろうとするような遊びや体験を通して、気持ちのコントロールが難しい幼児も、友達と折り合いをつけたり、気持ちを切り替えてクラスの中で友達と過ごすことが楽しいと感じたりすることができるようになった。 ・泣いている友達には、どうして泣いているのだろう、どうしたら泣き止むだろうと、日々一緒に生活の中で感じ、自分からかかわることができるようになってきた。しかし、何かで困っている友達がいても、自分とは関係ないことであると、自分事としてとらえることが難しく、引き続き取り組んでいく必要がある。	

２　改善方針

・教師一人一人の思いを園内研修の中で伝え合い、ズレがあった時には個々の思いを認め合いながらも園全体での思いを一つに合わせてできる手立てを工夫していく。思いを出し合い、認め合うことで、教師間での学び合いができるようにしていきたい。

・教師が一人一人の幼児に丁寧なかかわりを心掛ける。また、幼児の自分で考える力、自主性、積極性をどう育てていくとよいか、教師の援助方法や、活動の計画など、しっかりと職員間で連携できるようにしていく。

・挨拶の定着について、もう一度幼児の姿や教師の関わり、家庭の様子などを客観的に見直して、保護者にも啓発をしながら、継続的に取り組んでいかなければならない。

・幼稚園での教育内容が、保護者や地域に伝わりにくいこともあるので、毎日の送迎時やおたよりなど、アピールの方法を工夫していく。

・園外保育の中で、幼児も保護者も、地域のことをさらに知っていけるような計画を立てていきたい。地域を生かした教育の推進を、教師間で検討していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　三重　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	学び合い、聞き合い互いに高め合える職員集団の形成	4
成果と課題	子どもたちの姿について、毎日職員同士で話し合える関係ができており、気になる幼児の姿を様々な視点から見て、かかわり方のアドバイスを出し合い、聞き合えることができた。日々の保育内容についても、担任同士が互いのクラスの活動を見せ合う時間があったり、遊びの中で交流する時間を持ったりすることで、製作物や遊びの知識を増やすなど、学び合う姿勢に努めた。一方で、行事が続いたりすると、クラス中心の活動が多くなりがちになってしまい、行事の中で子どもたちを交流させたり、保育の学び合いをしたりする機会は多く持てなかった。行事を通して子どもたちにつく力に、もっとスポットを当てて、ねらいを教師間で共有する努力が必要である。	

重点２	自尊感情を持つ幼児の育成	3
成果と課題	年少児クラスでは、つねに教師が幼児に対して温かく見守り続け、「できた！」という成功体験がたくさん積めるようにかかわり、初めての集団生活の中で少しずつ様々なことへ挑戦する気持ちを持てるようにした。受け止めてもらえる安心感をいっぱいに感じたことで、遊びの中で、友だちや教師に自分の思いを出せる幼児が増えていった。年長児クラスでは、竹馬、なわとび、鉄棒、雲梯など個人の目標を決めて皆で同じことに取り組む活動を積極的に取り組み、互いに競いあったり励まし合ったりする関係づくりを目指した。仲良し同士が誘い合って挑戦したり、苦手意識のある友だちに教えたりする中で、自然と子ども同士で自分はどう思っているのか、思いを出せる子が増えていった。ルールのある遊びも意識して取り入れ、教師も一緒になって楽しむことで、ルールがあるからこその楽しさや、真剣に取り組むことで味わえる面白さを伝えていった。自分の思いを出すばかりでなく、友だちの意見やアイデアなどを受け止める気持ちが持てる子が増え、自分たちで遊びを考えられる子が増えてきた。しかし、両クラスともに、相手の思いに気づけなかったり、友だちの表情を読み取ることのできなかったりする子の姿が目についた。全員に同じように力がついていくために、かかわりを振り返ることが必要である。	

重点３	友だちと一緒に思いきり身体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	4
成果と課題	年少、年長ともに戸外で活発に遊ぶことを楽しむ子が多く、友だち同士で誘いあってあそびに入っていく姿が多く見られた。年少クラスでは、おいかけっこや、ボール遊びに教師も参加し、思いきり遊ぶことを楽しめる経験を積んでいくことで、持久力や体幹が育っていくようにかかわった。遊びの経験の差から、室内遊びが多くなりがちになる子もいたので、戸外の遊びにも興味が持てるような環境整備の工夫が必要である。年長クラスでは、サッカーやケイドロなどを友だちと楽しむ時間をつくり、遊びの中で動き続けることで、持久力や瞬発力、空間を見て動く力が育つようにかかわった。ボール遊びの苦手だった子が、遊びのなかで友だちから上手なボールの投げ方のコツを教わり、動きが変わっていく姿などが見られた。年少も同様に、遊びの好みにより、戸外よりも室内遊びが多くなる子もおり、戸外の環境設定の工夫や声掛けを続けることが必要である。	

重点４	友だちと一緒に楽しく豊かに自然とかかわる幼児の育成	2
成果と課題	地域の田んぼを使わせてもらって、泥や水、田んぼに生息する生き物にたっぷりと触れ合う機会をもった。個人のプランターで栽培している野菜や花に対し、「早くできないかな。」と水やりを頑張る子たちや、花を使って色水遊びをする子たちがおり、自分で世話をする楽しみを見つけていた。一方で、園の畑の野菜は不作になることが多く、種植えや苗植えを経験しても、収穫の喜びを得ることが難しいこともあった。教師が自然物の生態の正しい知識を身につけて、幼児とともに水やりや草抜きなどをしながら野菜の成長を見取り、収穫するときの喜びをもっと大きいものにできるようにしていく必要がある。また、日常的に地域を歩き、地域の自然を感じ取られるようにしていきたい。	

２　改善方針

〇お互いの保育観を認め合い、学び合える関係を高めていけるように、積極的に情報交換やコミュニケーションをとる職員集団を目指していきたい。活動の一つ一つを丁寧に振り返り、次回の活動をより良いものにできるように、園内研修や反省会、研修の報告などを充実させていきたい。
〇子どもたちの姿をありのままに受け止めて、どの子にとっても園が居心地の良い安心できる場になるように環境を整えていけるようにしていきたい。認められた経験をたくさん積むことで、自分が大切な存在であることを感じ、友だちと色々なことに挑戦する気持ちや諦めないで頑張ろうとする気持ちが生まれるように援助していきたい。
〇一人ひとりの発達や経験の差を見極めた上で、楽しく遊ぶ中でより身体を使って思いきり遊べるように環境設定や遊びの工夫をこらす。毎日のチャレンジタイムなどを活かし、挑戦する気持ちを友だち同士で高め合いながら、身体の使い方や力加減の仕方が身についていけるように、目標をもって楽しく取り組める環境づくりを目指す。
〇園外の自然に触れる機会をより積極的に設け、身の回りにある自然や食べているものがどう作られているのかを子どもたちが感じられるようにしていきたい。そのために季節と自然とのかかわりを職員自らが感じ取れる意識と、自然物に対する知識をより豊富に得る努力をしていきたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　保々　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	夢中になってあそぶ（学ぶ）教育内容の充実	3
成果と課題	○「夢中になれる環境・友だちとつながる環境」をつくるために ・子どもたちの興味や関心が、今どこに向いているのかを、敏感に感じ取るよう努めた。楽しくワクワクするような導入や展開、声かけ、保育のしかけを工夫してきた。一人一人の幼児の、取組む過程をじっくりと見つめることで、内面を捉え、その思いに寄り添うかかわりを心がけた。そのことで幼児の声が大きくなり、好きな遊びが見つかり、幼稚園が安心できる場となった。 ・苦手なことになかなか挑戦しようとしなかった幼児が、運動会を中心に自信をもち、自らやってみようという気持ちに変わった。幼児のくじけそうになる思いを、教師や友だちとのかかわりで支え、ちょっと難しいことにも興味がもてるよう活動にとり入れてきた。一人一人の体験の機会につなげることができた。（アンケート:あそびの種類・生活体験増えましたか 85%そう思う） ○自分の思いを相手に伝える機会を大事にし、幼児の思いを丁寧にひき出し、かかわってきた。教師の後押しが必要な幼児もいるが、相手に伝えることで、友だちの思いを知る機会となった。なかなか思いを出せない幼児が、思いを伝える友だちの姿を見て、自ら伝えてみようと動き出し、自信につながった。 ○幼児一人一人に、どんな力をつけたいか、職員間で話し合い、手立てを共通理解して進めていくことができた。 ・友だちへの関心を高めることができた。(アンケート：友だちがふえましたか 92%そう思う) ◎話を聞く力は、今後も取り組む努力が必要である（アンケート：人の話を聞こうとする 52%おおむねそう思う）。話をやりとりする心地よさや、聞いてもらう喜びを積み重ねるとともに、話をする人の方を向くなど意識化を図る。 ◎異年齢のかかわりでは、憧れ、意欲、思いやり、自信を育むことができた。今後、自ら選んで遊ぶ中での自然なかかわり、互いの遊びの中の気づきにも目を向け、実践を積む。	

重点２	保・幼・小・中・高との連携の充実	3
成果と課題	○保育園交流では、年間計画を立て、事前・事後に話し合いをもつことで、具体的な活動の流れを見通し、幼児の姿を予想することができた。園児同士、名前を呼び合う機会を大切にしてきたことで、より親しみをもちかかわりを深めることができた。 ○小学校交流の給食体験では、保・幼・小交流の一環として設定することができ、教室で一年生と食べるなど、小学校を知るよい体験の機会となった。 ○保・幼・小・中で行う公開保育、公開授業、学期に一度、保・幼・小・中全職員で、子どもたちに「つけたい力」、そのための具体的なかかわり方を学び合った。子どもたちの育ちと手立てをつないでいく研修となった。 ◎今後も小学校との円滑な接続のために、小学校低学年、特別支援教育の取り組みに学ぶ機会をもつ。	

重点３	保護者・地域との連携と協働	4
成果と課題	○降園時、保護者との対話をどの職員も積極的にもつよう心がけた。幼児の成長をともに喜ぶ場、保護者の悩みを把握する場となった。 ◎今後も子どもの姿を通して、保護者同士をつなぐかかわり方を工夫する。 ◎つかんだ保護者の思いや捉えを、保護者の集う場、「ふきのとう」の場で返していけるような工夫をする。 ○保育参加・地域の方との交流は、保護者アンケートで「よい」と支持されている。 ○年長児を中心に、友だちの家めぐりで地域を歩き、人のあたたかさや自然の豊かさを感じる機会となった。計画的に取組むことは、継続して行っていく。その機会を大切にしていることは、保護者には伝わっているが、(89%そう思う)　子どもたちが「自然の変化に気づく」では、(41%そう思う・55%おおむねそう思う)であった。自然に関心を向け、親しんでいる姿を発信していくことが必要である。 ◎「育ちのプログラム」についての発信をしているかのアンケート結果で、(70%そう思う・29%おおむねそう思う)であった。職員間で話し合い、幼児の姿の捉え、かかわりにつなげることはできたが、発信の仕方に工夫が必要である。「どんな力がついてきているのか」を視覚的に訴えられるもので伝えていくことも今後は必要である。	

２　改善方針

○「人の話を聞こうとする」態度を身につけるためには、自分の話したいことを真剣に聞いてもらう体験が大切である。周りにいる大人から『向き合う』意識を高める。園での姿、取り組みを伝えながら、家庭でもともに取り組んでもらうことに努める。 ○異年齢の自然なかかわりの中で、憧れのきもち、相手を思いやる気持ちが表れている姿に目を向け、それぞれの年齢における発達保障をする。それらの場面にかかわった各職員の捉えを共有し合い、「遊びが次の子どもたちの姿へ、どうつながっていくのか」を検証しながら、遊びの充実につなげる。 ○保・幼・小交流では、互いの幼児・児童に職員から更に声をかけ、つながりを深める。事前・事後の話し合いを深め、「ねらい」「指導上の留意点」等、共有して進める。 ○「どんな力をつけたいのか」「どんな力が育ってきたのか」について、日常的に育ちのプログラムとつなげた捉えを視覚的に発信する。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　下野　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体づくり	3
成果と課題	・基本的な生活習慣の大事さを繰り返し伝え、自分の体を大切にしようとする気持ちを育てることができた。 ・体を動かしたくなる環境を用意したり、誘ったりすることで、いろいろな体の動かし方を楽しめるようになった。12月から、朝、マラソンとチャレンジタイムで様々な運動遊びをすることで、取り組んで楽しかったという充実感や満足感が味わえるようになった。 ・地域の中に豊かな自然に触れ合える場所があり、出かける計画をしていたが、天候や日程がうまく合わないことがあった。 ・個人栽培や園の畑で野菜を栽培することで、野菜の生長や食べ物に興味、関心を持ち、嫌いなものを食べてみたり、進んで食べようとしたりする気持ちが育った。	

重点２	豊かな表現力と確かな力をつける教育内容の充実	4
成果と課題	・幼児の表現を受容し、共感を持って受け止め、表現する過程を大切にすることで、自己表現することを楽しめるようになった。 ・生活や遊びの中で、人や物を数えたり、量を比べたり、様々な形を組み合わせて遊んだりした。さらに、積み木やボールなど立体に触れる経験を大事にすることで、数量や図形に関心を持ち、理解につながった。 ・一つ一つの行事にねらいを持ち、達成するための支援の方法を具体的に持つことで、喜びや感動、達成感を味わうことができた。幼児の負担にならないように、適切なものを精選する必要がある。 ・毎日の絵本の読み聞かせや、「どっこいしょ」の素話を聞くことで、集中して話を聞く力や、聞いたことを自分でイメージして理解したりする力がついた。	

重点３	友だちと一緒にたのしく遊び、友だちとの生活を楽しむ心を育てる	4
成果と課題	・幼児がよりやってみたいと思える環境の工夫をすることで、意欲的に自らかかわり、いきいきと遊ぶ姿につながった。5歳児が4歳児を遊びに誘い、共に遊ぶことで、思いやる気持ちや憧れの気持ちを持つことができた。 ・苦手なことから避ける姿があったが、繰り返しがんばっていることを認めていくことで、最後まであきらめない力や苦手なことにも挑戦してみようと思う力がついた。また、友だち同士教え合ったり、喜び合ったり、刺激し合うようになった。 ・トラブルや葛藤場面では、幼児の主張や気持ちを受け止めて、互いの思いが伝わるように配慮していった。繰り返し、根気よく伝えていくことで、言葉で伝えたり、友だち同士で話し合って解決しようとしたりするようになった。 ・当番での活動や、グループでの掃除を行うことで、責任感を持ったり、友だちと協力して生活の場を整える気持ちよさを味わったりすることができた。	

重点４	保護者や地域や保小中と連携し、地域とつながった教育を進める	3
成果と課題	・毎日の送迎時、家庭訪問、電話等で家庭との情報交換を密にとることで、幼児の姿や成長の姿を伝え合うことができた。幼稚園教育で大事にしていることをおたより等で伝えるようにしていたが、なかなか伝えきれなかった。 ・地域の人との交流する機会が少なかった。 ・保小中の子どもたちが交流することで、地域で育っていることを意識したり、大きくなることへの期待をもったりすることができた。一方、職員同士の交流、研修の深まりには課題もある。 ・わくわくクラブの参加者が少なく、知ってもらう工夫が必要である。 ・地域や保護者の方からいただいた意見や評価に対して、職員で話し合い、改善するように努めた。	

２　改善方針

・園外保育は、職員が地域を知り、気軽に出かけられるような内容を考える。また、時期や発達に応じた内容の精選が必要である。
・園内の畑で、野菜を栽培し、収穫、味わう経験はできたが、自ら調理することが難しかった。衛生面等で配慮しつつ、取り入れていきたい。
・地域の園として、地域の老人会、ボランティアなどの方と交流し、地域の子どもたちを地域で育てることを大事にしていく。また、未就園の方にも幼稚園のことを知ってもらうように、地域のたよりやセンターを活用していく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　羽津　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びを通しての学びの充実	3
成果と課題	・体力や運動能力実態把握、ねらいや環境構成、幼児につけたい力について職員で話し合い、工夫につなげたが、環境設定や継続した取り組みが不十分であった。 ・竹馬の取り組みが自信につながり、自ら「やってみよう」とする姿が増えた。友だちの姿にも目を向け、喜びを共感するようになった。 ・発達に合わせて興味をもっている遊びを設定したことで、個人の遊びから少人数でつながって遊ぶ場面が増えた。長期的なねらいをさらにもてるとよかった。 ・身の周りのことを自分でできるように家庭とも連携をして一年で生活リズムが身についてきた ・保護者評価では「幼児にふさわしい経験や体験が幼稚園でできましたか」「幼稚園教育の教育内容に満足していますか」という質問に対し、高評価（１００パーセント）であった。保護者にも子どもたちにも満足してもらえるよう、今後も学びの充実に取り組んでいきたい。 ・挨拶の取り組みも教師から声をかけすすめてきたが、自ら進んでできない幼児も多い。	

重点２	人とかかわる力の育成	3
成果と課題	・４歳児は集団生活が初めての幼児がほとんどであり、困ったことが起きた時は学びの機会と捉え、一緒に考え、関わり方を考えてきた。５歳児は個々だけではなく、クラス全体の場での学びとして考えられるようにしてきた。一人一人の違いを認め合い、仲間を大切に思えるような取り組みがさらに必要である。 ・「今どんな気持ちカード」の活用により、自分の気持ちを伝えるだけでなく、友だちの思いに触れたり、表情や態度から気持ちをよみとろうとする子が増えた。さらに実践の場で考えられるようにしていきたい。 ・ふれあい遊びを通じてお互いの気持ちや個性に気づく機会をつくった。友だちと関わることが苦手だった子も少しずつ友だちとかかわる楽しさを感じられるようになった。 ・友だちが挑戦している姿を周囲の子どもにも知らせながら認めていった。友だちからの励ましの言葉や認める言葉も増えていった。 ・キャリア教育の視点で、子どもの活動を捉えたことで職員が活動に対するねらいを明確にできた。 ・自分の思いが言葉に出せずにいた子には教師が仲立ちとなり、相手に伝える方法を知らせていったが、上手く伝えられなかったり、口調が強くなる姿もあるので、今後も取り組みを続けていきたい。	

重点３	地域や家庭、専門機関との連携の推進	3
成果と課題	・ファミリーティーチャーについては日ごろの保育の様子や子どもの姿が分かってよかったという肯定的な評価が１００パーセントであった。さらに子ども理解につながるようにねらいを保護者に明確に伝えていきたい。 ・保護者参加や参観など様々な行事を通して、子育てを楽しむ機会や子ども理解につなげることができた。 ・中学校区の学びの一体化の取り組みを通じて子どもたちの姿を共有し、学び合うことができた。 ・春風会をはじめ、様々な地域の人に支えてもらっていることを子どもたちが感じ、感謝の気持ちをもてるようにしてきた。 ・降園時に幼稚園の様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりするなど家庭と連携をし、園での保育にもつなげていった。 ・専門機関の方から学ぶ機会をもち、スキルを教えてもらって保育に活かすことができた。	

２　改善方針

・会議や園内研修のもち方を工夫し、一人一人の幼児についての発達やかかわりについてさらに考えていき、環境の工夫をする。またゆとりをもって準備や計画をしていきたい。
・１年間の取り組みの記録をより分かりやすいものにし、次年度につなげていく。
・月案作成時に先月の教育目標に対し、どのような取り組みをして子どもの姿がどうだったのかを考えられるよう、PDCAサイクルを用いた園内研修の場を確保していく。
・ファミリーティーチャーのねらいを職員がしっかりととらえ、それを保護者に伝えることで、さらに充実したものにしていく。
・遊び会で在園児との交流の場を工夫し、入園児や保護者の安心感や、在園児の育ちにつなげていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　富洲原　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びの充実を図る。	3
成果と課題	○主体的な活動については、自分で選択し、決定する場を大切にしてきた。自分なりに考えて、意欲的に遊ぶ姿が増えた。 ●成功体験をたくさん積み重ね、自尊感情を育てることを意識の中心においてきたが、失敗したことを怖がらず、糧にして次につなげていけるような力強さを育てることは難しかった。 ○朝の体操を９時から行ったことで、登園時刻を守る幼児が増え、生活リズムが整った幼児が多かった。また、朝一番に体を動かし、目覚めさせることで戸外遊びをするきっかけとなり、体を使って思い切り遊ぶことができた。 ●体づくりにつながるように場や道具を設定したが、そのために遊びが崩れたり、継続しなくなってしまう姿も見られた。少人数で遊びを成立させていく難しさを感じた。 ○栽培活動と関連付けて、野菜を楽しくおいしく食べる機会を多く持つことができ、食に対する意欲を持つことができた。	

重点２	自己表現する力を育てる。	3
成果と課題	○幼児の思いを受け止めたり、丁寧に聞き取ったり、言葉がけを工夫してきたことで、身振りや手振り、知っている単語を使って、自分の思いを表そうとする幼児が増えた。また、自分の思いを自分なりの言葉で表すことも増えた。 ●一方で、語彙が少なく、思いを言葉で表現することが難しい幼児もいる。 ○普段の読み聞かせの中で、さまざまなジャンルの絵本に興味を持つ幼児が増えた。 ●しかし、自ら日常的に絵本に親しんだりする機会は少ない。また、保護者の読み聞かせに対する意識を高めることは難しかった。 ○基本的生活習慣や園生活の流れやルールは身についてきた。決まったことに対しては、自信をもって行動したり、言ったりする姿が見られる。	

重点３	家庭・地域との連携を図る。	3
成果と課題	○子どもを中心において、保護者と話をする時間を多く持つことができた。園での子どもの様子をしっかりと伝えていくことができ、保護者の思いを伝えてくれることも増えた。 ●保護者、教師、相互の思いや不安について、踏み込んで話をしていく難しさを感じた。 ○朝ご飯を食べていなかった幼児も、友だちや教師の言葉から食べてくるようになってきた。 ●挨拶はしてもらえば、返すようになってきたが、自分から自然にすることには課題が残った。 ○地域とのかかわりを深くもつことができた。地域で行われている祭りについて、教えてもらったり、手紙のやり取りをしたりと、子どもたちにとって貴重な経験をすることができた。	

２　改善方針

・体づくりについては、朝９時からの体操を、子どもの様子を見ながら継続していく。また、跳び箱、ジャンピングなどを設定する際も、現状の子どもの姿に合わせ、教師が事前に打ち合わせをし、計画的に行っていく。
・園では野菜を食べる幼児が増えたが、家庭では食べていない、食卓に並ばないということも多かった。栽培・食育活動がより充実したものとなるよう工夫するとともに、家庭への啓発の仕方も工夫したり、親子でクッキングをする活動を継続したりして、幼児だけでなく家庭の意識も高めていけるようにする。
・子どもたちと会話をしたり、遊びの中で言葉や物の名前を覚えられる活動を工夫したりし、語彙を増やしていく。間違っても大丈夫だと思える活動を工夫する。
・保護者とはクラスの教師だけでなく、園全体でさまざまな立場の教師からかかわりを持ち、深めていく。
・挨拶が自然なものとなっていくように、今後も教師が率先して挨拶をしていくとともに、園外へ出かける活動も計画的に行っていく中で、さまざまな人とかかわっていく経験をしっかりともてるようにする。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　高花平　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	健康な心と体の育成	3
成果と課題	・「早ね、早おき、あさごはん」の生活リズムについては、昨年同様に家庭と連携をとりながら取り組んできたので、おおむね定着してきている。今後も家庭との連携をとりながら取り組みを継続し、生活リズムの習慣化と定着を図りたい。 ・年間を通して、鬼遊びやドッジボールなど全身を使った遊びを楽しみ、「戸外で遊ぶことが好きになった」と、８７％の保護者からA評価の回答であった。鉄棒や縄跳び、竹馬などは、教師が園児の頑張りを支えていった事で根気よく取り組む姿がみられた。幼児が楽しみながら身体感覚を高めるための環境の工夫を、今後も考えていきたい。 ・散歩や遠足など、園外保育に出かけることで、季節を感じたり、地域の人と触れ合ったりして、自分の地域に親しみを感じることができた。今後は、体力をつけるためにも、年齢別に距離を考えた園外保育の計画を立てていくことも考えていきたい。 ・毎日の水やりなどの世話を通して、自分たちが育てた野菜を収穫する喜びを感じることができた。収穫したものを園内で調理していただくことで、食経験を広げていくことができた。	

重点２	コミュニケーション力の育成	3
成果と課題	・朝の出会いをはじめ、挨拶の場面を大切に関わってきた。すすんで挨拶をする幼児もいるが、声をかけてもらうことで安心して挨拶をする幼児の姿もみられる。教師も気持ちのよい挨拶を心がけていくことで、友だち同士や地域の方、来園者に挨拶ができるようになってきた。 ・混合保育の中、生活や遊びを通して異年齢のかかわりを深めることができた。5歳児は4歳児を気遣ったり、気持ちを汲みとってかかわる姿がみられた。5歳児のかかわりに4歳児は安心して、自分の思いをのびのびと表現しながら園生活を過ごすことができた。教師は幼児の思いに寄り添い、共に考えたりしていくことで、5歳児は遊びの中で考えを伝え合う姿や、4歳児は自分の気持ちに折り合いをつけようとする姿がみられるようになった。 ・「友だちが増えた」と９０％以上の方がＡ評価だったのに対し、「人の話を聴く」「相手に分かるように話す」ことに関してはＡ評価が50パーセント前後であった。5歳児は、言葉にならない思いを汲みとり、行動したりする姿がみられ、4歳児は、幼児同士で気持ちを出し合いながら遊びをすすめていく場面が少しずつみられた。言葉による思いの伝え合いを大切にしているところである。 ・保幼小中、あけぼの学園、地域の高齢者の方との交流の機会を積極的に持ち、いろいろな人と触れ合う中で、刺激を受けたり、温かさを感じることができた。	

重点３	学びにつながる意欲の育成	3
成果と課題	・砂遊びや色水遊びなど自然物とのかかわりの中で様々な気づきや発見をし、そのことを自分なりの方法で表現することができた。自然物からイメージを広げて遊んだり、その不思議さに心を動かし、探求してみようとする意欲を持つことができた。また、命あるものを大切にしようという気持ちの芽生えを育むことができた。 ・積み木や空き箱制作などの構成遊び、お店屋さんごっこや郵便屋さんごっこなどを繰り返し楽しむ中で、数や形、文字に興味を持つ姿がみられるようになった。遊びの中で、興味や探究心を深め、幼児同士考えあったり、試行錯誤しながら育ち合うことができる教師の援助のあり方を園内で話し合うことができた。 ・「文字や数に興味を持つ」「遊びを試したり、工夫したりする」ようになったと、ＡＢ評価をあわせるとほぼ100%になり、園生活の中で学びにつながる活動への取り組みを理解していただいている。 ・好きな遊びに偏りがちな幼児もおり、いろいろな遊びへの興味ややってみたいという気持ちを育んでいく環境作りが課題である。	

重点４	子育て支援の充実	3
成果と課題	・懇談会や送迎時の機会を利用して個々の保護者との連携をとり、幼児の様子を伝えたり、保護者の悩みや相談に応じたりしてきた。幼児の姿から、発達を捉えたり、大切にしていきたいことを伝えるようにし、共に幼児の成長を喜んだり、考えたりしていくことができた。 ・園開放の「遊び会」の内容を、園児と「遊び会」の子どもたちが一緒に活動する機会を作るように工夫したことで、園への安心感や期待感につながっていった。 ・3歳児の「遊び会」の活動内容を、巧技台でのサーキット遊び、絵の具遊びなど様々な活動をとり入れて工夫した。一定の参加者が定着し、期待を持って参加する姿がみられた。 ・「遊び会」での子育て相談としての利用は少数であり、相談窓口としての周知や相談しやすい場づくりを今後も工夫していきたい。	

２　改善方針

・「早ね、早おき、朝ごはん」や生活習慣、日常の挨拶の定着に関しては、その大切さや必要性を発信していくとともに、家庭との連携をとりながら粘り強く取り組む。

・栽培方法や収穫の時期、いろいろなクッキングの方法などを学び、幼児が豊かな食経験を積み重ねていくことができるような食育活動を考える。

・年齢別に距離やコースを考え、地域や自然に親しむ園外保育を計画したり、身体感覚を高めるための遊びや環境の工夫を考え、年齢に応じた体力、脚力の増進に努める。

・「話す力」「聴く力」をつけていくために、教師が幼児の思いを橋渡しするだけでなく、幼児自身が相手に伝えよう、相手の話を聴こうという気持ちが持てるようなかかわりをする。

・個々の幼児のねらいに応じたかかわりを考えていくとともに、好きな事だけでなく、幼児の興味や関心が広がるような環境の工夫や教師の援助のあり方について、研修を重ねる。

・子育て支援開放の工夫を引き続き発信していき、地域の子育て支援センター的役割を担う努力を今後も行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　大矢知　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	コミュニケーション力のある子どもを育てる	4
成果と課題	（挨拶） ・園内での挨拶だけでなく、園外で地域の人に自ら挨拶をする姿が見られるようになってきた。引き続き教師がモデルになって挨拶をしたり保護者にクラスだより等で挨拶の大切さを伝えていく。 ・相手の名前を呼んだり目を見たりして挨拶をすることを教師自身が意識した。成果として、相手の方を向いて挨拶をする幼児が増えた。さらに挨拶を増やすために、教師が登園してきた幼児の存在に気が付けるように声をかけ一緒に挨拶をするようにする。 （周りの人と親しむ） ・一人一人の幼児の思いを受け止め、じっくり話を聞いた。また、具体的な言葉で気持ちや考えを伝え、自分と相手との思いの違いに気が付いたり思いがつながる楽しさを感じたりする体験の積み重ねに努めた。しかし、幼児の発達に合わせた援助、１対１のかかわりが不十分であった。教師が幼児の発達を共通認識し、援助していく必要がある。 ・ふれあいデー、保幼交流、幼小交流では、自ら挨拶をする幼児の姿を認めたり、挨拶や交流をしやすいように少人数のグループに分けて活動を行ったりした。緊張でなかなか自ら関われなかった幼児も、教師やクラスの幼児と一緒に地域の人と交流を楽しむ姿が見られた。	

重点２	体力のある子どもを育てる	3
成果と課題	（根気よく取り組む） ・失敗を不安に感じる幼児の姿が見られたことから挑戦する幼児の姿を認める言葉かけややってみたいと思える環境をつくるように努めた。友だちが楽しむ姿を見て挑戦しようというする幼児の姿が増えた。さらに友だち関係を深めていくことで、より工夫をしたり根気よく取り組んだりする姿につなげていきたい。 ・チャレンジタイムを通して、様々な運動遊びに取り組む機会をつくり失敗しても何度でも根気よく取り組む姿が見られた。 （体を動かして遊ぶ） ・園舎工事で園庭が狭く、固定遊具も一部使用できなくなったが、チャレンジタイムや散歩などの活動で園外で体を動かすことができた。クラス活動でも室内で全身を使った遊びを取り入れてきた。体を動かして遊ぶ楽しさを感じられる幼児は増えているが、引き続き意図的に活動を取り入れていく必要がある。 ・天候の良い日は戸外で遊ぶように促した。ほとんどの幼児が思い切り体を動かして遊びを楽しんでいるが、あまり戸外遊びが好きではない幼児もいる。そのような幼児が興味の持てる遊びを一緒に探したり友だちのしている遊びを紹介したりする機会をつくっていく必要がある。	

重点３	感性豊かな子どもを育てる	3
成果と課題	（創作活動） ・一人一人のイメージを知り、そのイメージを広げていけるように教師が提示したり一緒につくったりして遊んだことで個人での楽しさを感じられるようになった。今後は、友だちとの共通の楽しさを感じられるように、教師が言葉をかけてイメージをつなげるだけでなく、幼児同士が相談しイメージを合わせようとする姿を見届けながら必要な援助をしていくようにする。 ・幼児の気持ちに共感したり一緒に遊んだりすることで様々なことに興味を持てるようになってきた。 ・絵を描くこと製作をすることに関して経験の差が大きく、教師に援助を求める幼児の姿もあるが、経験を積むことで自ら作ってみようという姿が見られるようになった。 （絵本を通して物語の世界を感じる） ・視聴覚教材を教師自身が研究不足であった。また、教師が読み聞かせをする絵本のジャンルに偏りがあった。絵本以外にも、紙芝居・パネルシアターなど様々な教材を幼児に見せるように意識していく必要がある。 ・絵本ノートにコメント欄を追加したことで、保護者が我が子の感性（考え方）を知ったり絵本を楽しんだりする様子が伝わってきた。今後も教師がコメントを丁寧にかえしていくことを意識し、教師のおすすめの絵本を紹介するなど、保護者も楽しんでコメントができる工夫をしていく必要がある。	

２　改善方針

・一人一人の幼児の発達や家庭の実情に合わせ、援助をしていく。
・園内研修で、園全体の弱みや強み、教師個人の課題を自己発信し、意見交換をすることで実践に移せるようにする。
・クラス内だけでなく園全体で職員が情報を共有し、園全体で支え合える環境を整えていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　八郷中央　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	自分の興味・関心のある遊びに自主的にかかわり、集中して取り組む。	3
成果と課題	・自分なりに好きな遊びを見つけて遊んでいる姿が多く見られた。自ら興味のある遊びに関わっていけるよう様々な廃材を用意したり、子どもの姿を見て使うものを工夫したりしてきた。又、五感を使って遊びが体験できるよう、自然物を生かしたり、森や砂場で水・土・砂に親しんだり出来るように取り組むことが出来た。 ・各年齢に合った環境構成を工夫し、年少は少人数でじっくり安心して遊べるコーナーを設けた。年長は友だちと考えを出し合い、協力し合って遊びを深めていけるよう材料や素材を工夫し、イメージが広がるように努めることが出来た。 ・遊びに集中することが難しかったり、時間を気にしたりして遊び込めていない幼児の姿がある。今、幼児がどのようなことを求めているのかを探っていき、集中して遊ぶことが出来るように関わりや伝え方を工夫していく。 ・自主的に遊びに関わることが出来るように、何をさせたいか、何の力をつけさせたいか、教師がねらいをもって環境設定していく必要がある。遊び込めない幼児に対しては、教師が一緒に遊び、遊びの楽しさを体験出来るようにしていきたい。	

重点２	人とかかわる力を育てる。	3
成果と課題	・異年齢交流では、混合クラスの良さを生かし、年間を通して沢山行うことが出来た。異年齢でペアを作り行事に取り組んだり、鬼ごっこ等集団遊びやお店やさんごっこをしたりして一緒に楽しむことが出来た。 ・ペア活動を意識したことで年長が年少の気持ちを大切にし、話しかけたり、思いを聞いたりする姿があり、異年齢で遊ぶことによる心の成長があった。 ・年少児は自分の思いを通そうとし、言い合いになってしまうこともあったので、まずは教師が気持ちを受け止め、どうするとよいのかを考える力もつけていく。 ・良いこと悪いことの判断は、理由をきちんと伝え、なぜしてはいけないのかを大人が一つ一つ子どもに伝えていく必要がある。 ・相手の思いに気付きにくい場合は、その都度立ち止まって考えさせていく必要がある。考えることができた時には認めていくことが大切である。	

重点３	心身ともに健康な体づくりをおこなう。	3
成果と課題	・サーキット遊びや固定遊具等様々な遊びを通して、幼児が柔軟に体を動かして遊べる工夫を充実することが出来た。鬼ごっこも走るだけでなく、固定遊具も使いながら行ったり、冬はマラソンもして体づくりに取り組んだ。 ・早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムは、家庭との連携が大切である。そのため、保護者にも生活リズムの大切さを伝え、なぜ幼児期に生活リズムを整えることが大事なのかを必要な家庭には話をした。しかし、改善されることは難しかった。今後どのように連携していくと良いのかを考えていく必要がある。 ・固定遊具等苦手なことに挑戦することが消極的な幼児には、やってみようと思えるようにスモールステップで自信をつけて意欲にしていく。 ・親子で体を動かす保育参加をリーフレットを配布して行い、手先から体全体を使う運動まで取り入れて行うことが出来てよかった。今後も実践していきたい。	

重点４	幼稚園教育力を高める。	3
成果と課題	・保育後に子どもの様子について話し合い、子どもの様子を伝え合うことで連携がとれた。今後は、子どもが今している遊びが何につながっていくのかを保護者に伝えていくなど、公立幼稚園の大切にしていることを発信していく力をつけていく。 ・四同研を中心に人権教育について職員の資質向上に努めることができた。又、定期的に配慮を要する幼児に対しての研修も行い、教師が保育を見直すことが出来た。今後も、職員が実践を出し合い、幼児に合った支援や手立てを考えていくことができる力をつけていきたい。	

重点５	地域に根ざした幼稚園の実現	3
成果と課題	・園では手洗い等基本的生活習慣が身についてきた。しかし、家庭では特にあいさつや手洗い・うがいをするということが難しい幼児の姿がある。今後は幼児に対して、なぜ大切なのかを伝え、本当の力がつくようにしていく。 ・年間通して福寿会との交流があり、畑活動を通して直接体験できる良い機会となっている。昔遊びでは、手先を使ったおてだまやおはじき、コマなどの遊びを教えて頂き色々な遊びを知る機会となっている。 ・地域人材を生かした取り組みとして、大矢知のそうめんを作る過程の話や、麺を伸ばす体験を行うことができ、地域の特色に触れる体験を行えた。又、地域の人に手品やイベントを行ってもらい、楽しむ場を設けた。 ・朝明川の生き物に詳しい地域の人に来て頂き、朝明川体験を行ったことで地域を知ることにつながった。八郷フェスタにも初めて参加し、地域との交流を深めることが出来た。今後も地域に根差した幼稚園となっていくよう、交流の在り方を考えていきたい。 ・ＨＰをより一層充実させていきたい。	

２　改善方針

〇重点１
・午前だけでなく、午後の自ら選んで活動する時間の保障をしていく。
・失敗してもがんばっている場面を伝えることで、失敗を恐れずチャレンジする幼児が増えていくと思う。教師の意識の持ち方で幼児への見方も変わっていくと思う。
・保育日誌から様々な幼児の姿を捉え、教師の幼児への見方や理解を深めていく。
〇重点２
・異年齢交流であそび会の子とじゃがいもやさんをし、招待することが出来た。在園児と交流することで園の様子がわかり、人と関わる力を育てる機会となった。来年度もあそび会との自然な交流を増やしていきたい。　・自ら選んでする活動の中では異年齢で交流を深めることが出来た。今後混合クラスの特徴をもっと生かし、一斉活動でも交流を深めていきたい。
〇重点３
・家庭の背景をしっかり捉え、保護者の生活や思いを理解しながら、幼児について話し合っていくことが大切である。
・たよりで生活リズムの大切さを伝えていく。
〇重点４
・配慮を必要とする幼児の理解を深め、幼児一人一人をきちんと見ていき、より適切な支援の仕方が出来るように教師一人一人の力をつけていく。
〇重点５
・八郷フェスタに参加することで地域を知り、郷土愛を育むことにつながっていけばよいと思う。負担にならないように地域と交流していくことが課題である。・教師が率先して地域の中に溶け込み、地域の良さを知り、幼児の心が豊かになる活動をしていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　桜　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びを通しての学びの充実	3
成果と課題	・「幼児たちが楽しく活動する」というねらいをもちながら、子どもたちの遊びが充実するように一人一人への願いもしっかりともって取り組んだ。 ・４歳児は、初めての集団生活を経験する幼児たちなので、遊びを楽しむことが十分味わえる環境を考えてきた。そして日々の遊びがより充実したものとなるよう、前日の遊びを翌日も継続して楽しめるよう場の設定を考えたり、幼児の発想に柔軟に対応し、その都度子どもたちと環境を構成し直したりしていくことで、幼児たちが「楽しい」という思いを存分に感じることができた。 ・５歳児は、一人遊びが楽しい幼児や、数人で楽しむ家族ごっこが好きな幼児、集団でのルール遊びが楽しい幼児など様々な姿を見せていた。遊びの中で個々の楽しんでいることを教師が一緒に楽しんだり、時に周りの幼児とつながって遊びが展開していくよう支援をしてきた。幼児たちが興味を持ったことを、繰り返し楽しむことができるようにすることで、幼児自身が遊びを工夫したり新たなアイデアを考え付いたりして、その遊びが発展していった。幼児同士のつながりも次第に増え、自分たちで声を掛け合い、ルールを決めたりしながら楽しむ姿も見られた。 ・今後も幼児の発達に合ったかかわりや、教材の効果的な出し方などを学び、幼児たちが様々な経験ができるようにしていきたい。	

重点２	健康な身体づくり	4
成果と課題	・様々な実践を読んだり研修で学んだことを活かして、身体づくりにつながる保育や遊びを設定することができた。 ・園内で「どのような動きや活動・遊びをするとよいのか」を話し合い、活動の中に取り入れることができた。幼児たちも楽しみながら身体を動かしている。また、５歳児も、年間を通して様々な遊具等にふれる機会を設定し、めあてを持って取り組むことができた。クラス全体で取り組む活動の中では、苦手意識を感じていた幼児も周りの友だちに励まされ、認められる経験を重ね、もっとやってみようと意欲を持ち自信につながっていった。 ・食育の面でも、園内の畑で自分たちが野菜を育てたり、クッキングをしたりする機会を通して、様々な食材にふれていくことができ、苦手な野菜を「少しでも食べてみよう」と思う子が増えてきた。しかし、まだまだ好き嫌いのある幼児の姿もある。「どうして食べることが大切なのか」「健康な身体をつくるために必要である」ということを十分に伝えきれていなかったように思う。また、園では食べることができても、家庭では食べないといった声も聞かれた。幼児自身が自分の体づくりに必要であることを感じられるよう、今後も家庭と連携をとりながら、進めていきたい。	

重点３	豊かな人間性とコミュニケーション力の育成	3
成果と課題	・４歳児は、クラスの中で何でも言い合えるような雰囲気を大切にしながら一人一人の思いを受容するかかわりに努めてきた。いろいろな友だちとふれあうことができるよう意図してきたことで、どの子とも楽しくかかわる姿が見られ、クラスが幼児たちにとって安心できる場所となっている。また、地域の方々とふれあう機会や、異年齢での交流をしていく中で、人に親しみが持てるようになってきた。 ・５歳児は自分の思いを相手に伝える幼児、自分本意に伝える幼児、思いや考えがあっても口に出さずにいる幼児、伝える力をさらにつけたい幼児など様々な姿があった。教師が丁寧に互いの気持ちを聞き、自分の言葉で相手に伝えていけるよう日々かかわってきた。葛藤場面を何度も経験する中で、自分の気持ちに折り合いをつけたり、自分なりの言葉で相手に気持ちを伝えられるようになってきた。これまで、教師が言葉を補いながら互いの気持ちに気付くことができるようにかかわってきたが、次第にと教師が幼児たちの間をつないでいなくても幼児同士で声を掛け合う姿、自分本意の言い方の幼児も相手の事を考えて伝えようとする姿が増えてきた。いろいろな子とともにいるからこそ、「どうしたらみんながうまく遊べるのか」と子ども同士で意見を出し合い考え合う積み重ねが、幼児たちのコミュニケーション力につながっているように思う。 ・挨拶については、自分から言葉として発する幼児もいれば、そうでない子もいる。幼児一人一人の心の揺れをしっかりととらえ、気持ちよく幼稚園に来ることができるよう受け止めていく。来年度は、異年齢のかかわりの中での育ち合いをさらに見つめていきたい。	

重点４	地域とのつながりと子育て支援の充実	3
成果と課題	・保育園・小中学生との交流、高校生の保育実習、地域の方たちとの焼き芋大会、地区文化祭への参加など、年間を通してたくさんの地域の方と交流することができた。今年度は、新たに遠足時に道路の横断の見守りをしていただいた。子ども達もたくさんの方との交流を通して普段できない楽しい経験がをすることができ、地域の方たちに温かく見守られている安心感を感じる事ができた。最初は物おじしていた幼児も、出逢いが増えるたびに、心地よさを感じ、地域の方に親しみをもって関わっていく姿に変わっていった。今後も地域の方の見守りに感謝し、交流を大切にしていきたいと思う。 　保護者との連携は、保育後の対話を積極的にしていく中で、子どもの育ちについてともに考えていくことの大切さを改めて感じた。日々の何気ない会話の中から、保護者の子どもへの思い・願いを感じながら保育に返していきたい。保護者とともに幼児の成長を考えていく姿勢となっているか、ともに思いを共有しているか、その都度振り返りながら、保護者の思いを傾聴し、受けとめながら今後も取り組んでいきたいと思う。	

重点５	教師の資質向上	3
成果と課題	・日頃から、常に保育後クラスの様子を職員間で話したり、悩みや課題について意見を出し合う機会を持ってきたので、職員全員で子どもの姿を共有し、共通理解をすることができた。保育の進め方や援助のあり方なども交流し、すぐに保育に活かしていくこともできた。 ・今年度は、外部の専門機関の先生に来てもらい学ぶ機会をたくさん持つことができた。その中で、新たな視点や、より良いかかわりをアドバイスしてもらうことができ、保育に生かすことができた。今年度の学びの成果で最も大きかったのは、「遊びの中の学び」についてである。「幼児は、楽しいと思った遊びを繰り返し遊ぶ中で様々なことに気付き、遊びを発展させていく。それが学びにつながる」ということを普段の幼児たちの様子と重ね合わせて確認することができた。 ・様々な研修での学びをさらに園内で確認し合う機会を持ち、今後は、保育の中で実践してみてどうだったかなどの振り返りも園内で共有し学びを深めていきたい。月1回の園内研修を位置づけ、今後も資質向上に努めていきたい。	

２　改善方針

〇さらなる遊びの充実を目指して、教材研究をし、年齢や発達段階に応じた教材の効果的な出し方や環境設定について学んでいく。また、体の使い方がぎこちない幼児の姿も見られるので、しなかやな身体の使い方を遊びの中で取り入れ、楽しいと思えるような実践に取り組んでいく。
〇食育については、これからも様々な食材に触れる機会を持つ中で、その食材が体にとってどのように必要なのかをわかりやすく伝えていくようにする。自分から進んで食べてみようと思えるかかわりをしていく。園内だけでなく、家庭とも連携をもち、好みのものも苦手なものも、いろいろな食材を食べてみようと思えるよう援助していきたい。
〇保護者連携については、保護者の思いに耳を傾け、「共に」子育てをしていく姿勢を持ち、本音で話し合える関係づくりを目指していきたい。
〇ふれあいタイムやファミリーテイーチャーなど行事の意義を確認し合い、それを保護者にも伝えていく。また、必要であればその持ち方の見直し検討していく。
〇研修の持ち方について、月1回の園内の日を活用し、園内研修を計画的に進めていく。その中で、自分たちが各種研修で学んだことを実践してみてどうだったのかを振り返り、さらなる資質向上に努めていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　常磐中央　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	確かな学力の定着 遊びを通して総合的に学べる環境構成・幼児の興味・関心・意欲につながる環境構成を進める	3
成果と課題	・幼児一人一人の興味や関心を探り、自分から遊び出せる、遊び込める環境づくりに努めた。また、次の日の遊びや活動が、豊かな体験につながっていくように考慮してきた。そして、遊び出すのに時間がかかる幼児には、幼児の家庭での様子を把握し、教師も一緒に遊び、何に興味があるのかを探りかかわることで安定して過ごせ、少しずつではあるが、遊びながら学びにつなぐ経験ができた。教育ビジョンアンケートでは、すべての保護者の方が『遊びの種類や生活体験が増えた』と感じてもらうことができた。これからも、友達と一緒に「やってみよう」という意欲を育て、楽しく遊びながら、体験を通して学ぶことができるように教育内容を常に見直していく必要がある。 ・好きな遊びや得意なことには意欲的な姿を見せるが、苦手なことには消極的な傾向が強く見られる。様々な体験ができるように考慮した環境、取り組み方法の工夫が必要である。	

重点２	豊かな人間性とコニュニケーション能力の育成 基本的生活習慣や規範意識を身につけ「きく力」「話す力」「考えて行動する力」を育てる 安心して過ごせる環境・クラスづくりを進める	3
成果と課題	・一年を通して｢早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」の生活リズムの定着と生活習慣の確立に向けて、その大切さを幼児に分かりやすく伝えたり、家庭にも働きかけたりして、ほとんどの幼児が身についてきたと感じる。 　しかしアンケート結果では『手洗い・うがいをすすんでしますか』『自分から日常のあいさつができるようになりましたか』の項目で、幼児が自主的に行うことが難しいことが明らかになった。これからも、自分から必要性を感じ、進んで行えるように指導方法を工夫し、家庭との連携、協力を得て定着をめざしていきたい。 ・一人一人の幼児に丁寧にかかわり、信頼関係を築くことを大切にし、安心して園で過ごすことができるように努めた。一対一の関係の中でじっくりと話を聴いていくことで、自分の思いを伝える経験を作った。さらにみんなの前で自分の考えや気持ちを話したりする機会を意図的に作ることで、自信をもって「話す力」がついてきた。しかし、「きく力」については、ビジョンアンケートでも『人の話を聴こうとしますか』の項目で低い評価となった。「きく」環境や教師の話し方などの工夫を考え実践してきたが落ち着いて話を聞くことが難しい姿が見られる。今後も根気よく取り組む必要がある。 ・｢考えて行動する力」については、個々の丁寧な支援を心がけてきた。「どうしたいのか」「どうすればよいか」を問いかけながら幼児が自分で考える機会を作ることで経験は積みあがってきている。よいこと、悪いことを意識して自信をもって行動ができるように、粘り強く取り組む必要がある。 ・友達と一緒に遊ぶ中で、自分も相手も思いを伝え合い遊びを進めていこうとする姿が見られるようになった。たくさんの友達と園生活を過ごし、遊ぶ中で、規範意識も育ってきている。	

重点３	健康・体力の向上 様々な活動を通してしなやかな身体を作る 身体を動かして遊ぶことが好きになるような環境作り、教材の研究を進める	4
成果と課題	・園内では、様々な身体の部位を使って遊ぶことができる遊具を考慮し、今年度、竹馬、たけぽっくり、バランスボールなどを意図的に設定することで、挑戦する幼児が増え、遊びの幅が広がった。室内においても、表現あそびの中で馬歩きや手押し車などの動きを取り入れ、しなやかな身体作りにつなげてきた。さらに、幼児が楽しみながら安全に取りくめる遊具を選び、遊びの時期も研究していくことが求められる。 ・日々の活動の中に、体操やマラソンなどを取り入れたり、「チャレンジタイム」を設けた。幼児が目あてをもって様々な運動遊びができるように計画したり、戸外で進んで身体を動かして遊べるようにしてきた。アンケート結果では、98%の保護者の方が体力がついたと感じている。今後は、幼児の姿や時期を考慮し、畑や散歩など園外に出かける機会を、計画的に実施することが必要である。	

重点４	学校教育力の向上 保幼小中の連携を図り、教育活動の実践を図る	3
成果と課題	・今年度も、同じ中学校区の保幼小中で連携をとることができた。公開保育、公開授業などを通して、園での幼児の姿を伝えたり、同じ地域で生活する子どもの姿を見合ったりして、子どもを主体にした保育、教育の研修を行うことができた。その中で、将来につながる生活習慣の確立、学ぶ意欲の育成についての課題解決に向けた取り組みの交流ができた。さらにその取り組みを園内の全職員で共通理解して、実践に活かしていく必要がある。 ・全職員で常に適切な支援方法について考え合う研修を行うことで、それぞれの幼児に合わせたかかわりに努めることができた。 ・三重大学の先生にも園の公開保育や研修会で指導して頂くことで、専門性を磨き、様々な幼児の理解につながった。また、適切な援助についてのタイミングや方法なども学ぶことができた。	

重点５	地域とともにある学校づくり 家庭・地域との連携を図り、子育てについて共に考えていく	3
成果と課題	・一人一人の保護者に丁寧に幼児の姿を伝えたり、話をしたりできるよう努めてきた。子どもの成長を共に確認し喜び合い、子育てについて考え合うことにつながった。しかし、それは十分でなく、園での幼児の姿、家庭での様子などを共有し、保護者と一緒に考え合える子育てを支援していくことが求められる。 ・保幼小中の交流は、積極的に行うことで、様々な人とかかわる経験となり、小学生や中学生に親しみをもってかかわっていく姿につながった。保育園交流は同じ年齢のたくさんの幼児と顔見知りとなり、同じ経験を積むことや、小学校への見通しをもつことにもつながった。今年度の活動を振り返り、来年度に向けて綿密な打ち合わせを行い、交流がよりよい経験となるようにしていきたい。	

重点６	四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進 四日市のもつ地域資源を教育に活用して、四日市を知ったり、関心を持ったりする	4
成果と課題	・参観日に「こにゅうどうくん」を招いて、保護者と共に『エンジョイ四日市』の体操に取り組んだ。プール、運動会の準備体操にも活用し、一年を通して『エンジョイ四日市』の体操を楽しむことができた。幼児は、歌詞の中の特産物などにも興味をもち、自分たちの住む四日市に親しみを感じ、楽しく身体を動かすことができた。 ・三重交通バスやあすなろう鉄道などの公共の交通機関を利用して、プラネタリウム、そらんぽ四日市（博物館）、消防署、南部丘陵公園などの施設見学や遠足などを実施したことで、家庭で利用した経験のない幼児が、四日市を知る良い機会となった。	

２　改善方針

重点1
・幼児が何を楽しんでいるのかを探り、興味や関心を広げ、やってみようとする意欲を育てることができる環境構成、教師の援助のあり方の研修をすすめる。

重点2
・生活習慣の確立のために、家庭訪問の機会、日頃の保護者との話などの中で、生活の背景や一人一人の実態を把握していく。
・皆で集まって話を聞く場面では、集中して話を聞くことができるように刺激の少ない場所を選ぶなどの環境を意識すること、話す時には、幼児の関心、興味が持てるように工夫し、分かりやすい話し方をすることなど、集中して聞くことができるようなかかわりを根気よく継続していく必要がある。
・落ち着いて話を聞くためには、きく姿勢についても関係があるので、姿勢の保持に向けて、体幹を鍛える身体づくりにも取り組んでいく必要がある。

重点3
・これからも、様々な身体の部位を動かしていく遊びを意識して取り入れていく。季節ごとの散歩なども含め、園外に歩いて出かける機会を計画し増やしていきたい。

重点４
・毎日の職員間での話し合いは、教育課程の見直しであったり、幼児理解を深める内容である。
そのカンファレンスの記録をとり、さらに研修が深められるようにする。

重点5
・来年度は、在園児と未就園児との交流の機会を増やし、子育て支援、相談の充実を図る。

重点6
・教師自身が四日市、地域にでかけ、四日市の地域資源を知り、年間の計画に組み入れ実践する。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　塩浜　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	遊びに意欲的に取り組む中で、気づいたり考えたりしながら、共に生きる力の基礎の育成をはかる。	4
成果と課題	〇成果 ・保育実践について研修を行い、教育アドバイザーや指導主事訪問を受けることで、子ども一人一人を多面的に捉えて保育をすることにつながった。 ・人的環境では子ども・保護者・地域からの信頼を得られるように努力し、自分自身を振り返りながら園内研修をすすめることができた。 ・遊びを通して友だちや教師など人とかかわることがうれしいと感じられるように心がけた。遊びや生活の中で葛藤する場面では、保育者に自分の気持ちを受け止めてもらうことで、スモールステップではあるが、自分の気持ちに折り合いがつけられるようになってきている。 ・普段の遊びや行事などの活動を通して、友だちと気持ちを合わせたり、友だちの姿を見て自分もやろうとする意欲や、友だちと助け合ったりする姿が増えた。大きな行事を協同してやり遂げることや、普段の遊びの中で友だちと一緒に喜び合える経験をすることができた。 〇課題 ・子どもたち自らがより遊びを発展させるような環境設定を工夫し保障していきたい。 ・一人一人の子どもの特性や発達を理解し、それぞれに適した支援ができるように職員間で話し合って園全体の共通理解にしていく。	

重点２	生活リズムの向上の取り組みとして、食育と基本的習慣の確立を重点的に取り組む	4
成果と課題	〇成果 ・朝の体操やマラソンを継続して行うことで、生活リズムが整うようになった。みんなで体操をする中で異年齢とのかかわりが自然にでき体力や持久力もついた。 ・野菜作りでは苗から野菜が生長していく様子を見たり、収穫や調理の体験をすることで、食に関心を持つ子どもが増えた。5歳児は、収穫した野菜の数の表にシールを貼ったり、給食室で収穫物をいろいろなメニューに調理してもらったことで食への興味や関心が増し、五感を使って味わうことができた。また、地域の方の厚意で何種類ものサツマイモの収穫をさせてもらい、芋づるを利用して遊んだり製作して収穫の喜びを実感することができた。 ・給食のメニューが体にとってどのような働きがあるのか、食材カードや絵本などを使って知ることで、いろいろな食材に興味をもったり友だちに伝えたりする姿も見られた。 〇課題 ・基本的な生活習慣については、身に付いている幼児とそうでない幼児の差が出ているので、今後も家庭と連携して、繰り返し働きかけることで身につくように一人一人のねらいを明確にしていきたい。	

重点３	保護者・地域に一体化園・特別支援保育についての情報発信をより具体的におこなう。	3
成果と課題	〇成果 ・行事や保育参加などの場を通して、また、地域に出ていくことで、子どもたちが生活や遊びの中で成長しあう姿を保護者や地域の方に見てもらい、子どもが共に育つ大切さを伝えることができた。 ・塩浜中学校区の「学びの一体化」研修に参加することで、地域で子どもの成長を見守ったり、どのような力をつけていくか、そのための手立てを保幼小中で考える機会を得ることができた。また、公開保育では、校区内の先生方の参加があり、子ども（乳児から幼児まで）の様子を見てもらうことで、地域の子どもたちの様子を把握していただけた。 ・園内に貼り出しをしたりHPを更新することで、リアルタイムに日々の園での子どもの様子を情報発信することができた。 〇課題 ・来年度からは認定こども園になるので、保護者に園のビジョンを把握していただくための説明の場をホームページや園だよりの他にも設け、就学前教育の重要性などを発信していき、地域や保護者への理解を深めたい。	

２　改善方針

〇園づくりビジョンを具体化した教育計画をもとに実践し、保育内容や環境構成など日常的に評価・反省し、園内研修の内容を充実させていく。
〇保育者が各クラスの幼児一人一人の発達をしっかり把握し、その時期にあった環境設定を考えたり、幼児と共に環境設定を創造したりしながら、自ら選んでする活動の中身を精査し、遊びの中の学びがより充実できるよう一つ一つの活動や幼児の行動にねらいをもって保育することに努める。
〇保育の計画と子どもの姿、人的・物的環境のあり方を毎月検討し、次月につなげていけるよう研修方法や時間の持ち方を工夫する。
〇特別支援教育・保育の観点や人権保育で大切にしていることを全職員で共に学び合い、実践に生かしていく。
〇園だより、クラスだより、懇談会、送迎の時間などの機会を通して、保護者に子どもの成長の姿と結びつけて就学前教育・保育の大切さを伝えていく。
〇地域とのつながりや学びの一体化研修、園つくり協力者会議の内容、保護者へのアンケート結果について具体的に伝え、共有できるように職員会議や園内研修の場を活用する。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　笹川中央　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	3
成果と課題	○４歳児は、体を動かして遊ぶことを繰り返し楽しむ中で、体力、意欲がつき、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、友だち関係も広がっていった。 ○５歳児は、体を動かす様々な活動に、楽しく意欲的に取り組めるよう、一人一人の意欲や達成度に合わせた支援を工夫したことで、体を動かす心地よさや楽しさを感じ、意欲的に取り組む幼児の姿が見られた。 ○手洗い・うがいなどの生活習慣や、生活リズムの定着には課題がある。家庭とともに取り組むための啓発に工夫が必要である。子どもたちに対しては、４歳児では分かりやすくやり方を伝え、自分でできる自信がもてるよう一人一人の姿を認め、５歳児ではなぜしなければならないのかを理解し、自ら行えるよう、必要性を繰り返し伝えていきたい。 ○自分のことは自分でできるよう、一人一人に応じた援助を続けることで、自分でしようとしたり、困った時は「手伝って」「教えて」と伝えられる姿が見られるようになった。 ○園内での栽培活動や、みんなで食べること、一人一人に応じた配慮を根気よく行うことで、苦手な食べ物も食べてみようとする姿が見られ、食への関心、意欲を高めることができた。 ○地区内で自然に触れられる場所を開拓し、園外保育をより充実させるとよかった。	

重点２	人と関わる力や温かい人間関係を育てる	3
成果と課題	○教師から積極的に挨拶し、挨拶の気持ちよさを伝えたり、絵本や手遊びを通して大切さを感じられるようにした。つながりが深まってくるにつれ、自ら挨拶したり、友だち同士で挨拶を交わす姿が見られるようになった。今後、家庭や地域の中でも挨拶ができるように、より積極的に取り組みたい。 ○「入れて」「いいよ」などの言葉を子どもたちの親しみやすいゲームの中に取り入れたり、日頃から丁寧に伝えることで、人と関わるための言葉を知ったり、自ら使ったりできるようにした。自分から、気になる遊びに入れた経験が自信となり、色々な友だちと遊びを楽しめるようになった。 ○５歳児では、自分たちで主体的に考え行動する力を身に着けてきた。友だち同士、教えあったり、伝えあったりする姿が見られ、人と関わる嬉しさを感じることができた。また、おにごっこなどは、クラスみんなでルールを共通して理解できるよう心掛けたことで、自ら選んでする活動の遊びの中でも、子どもたち同士で安心して遊びを進めていこうとする姿が見られた。 ○４歳児では、一人一人に寄り添い、気持ちを受け止めていくことで、安心して気持ちを出したり、周りの幼児の姿に興味を持ち、関わって遊ぶ姿が見られたりするようになった。教師が気持ちを受け止め、代弁していくことで、友だち同士気持ちを伝えあう姿も見られるようになったが、自己中心的な表現になってしまったり、気持ちが言葉にならないこともある。相手の気持ちを感じたり、一人一人が遊びの中で、より満足感や達成感を感じる経験ができるよう、遊びをを工夫していく必要がある。 ○５歳児が楽しそうに遊ぶ姿を見て、一緒になって遊ぶ４歳児の姿があり、自然な異年齢での交流が見られた。 ○幼児への関わり方について、講師を招き、年間８回、事例検討を行った。全職員で課題を共有し、一人一人の幼児の気持ちを受け止め、自分の思いを言い、友だちと折り合いを付けられるように関わった。幼児の何気ないつぶやきを敏感にキャッチし、いつも意見を言う幼児だけでなく、どの幼児にもスポットが当たるよう心がけたことで、自己肯定感が高まり、温かい人間関係が見られる場面が増えた。	

重点３	豊かな生活体験をし、聞く・話す・伝える力をつける	3
成果と課題	〇教師が、気持ちを受け止めていく中で、気持ちを受け止めてもらえる、話を聞いてもらえる安心感や心地よさを感じることで、「話したい」「聞きたい」「伝えたい」という気持ちを持てるようになった。 〇誕生会などの機会を大切にし、自分に置きかえて、どんな風に話を聞いてもらえると嬉しいのか考えたりし、話を聞くことの大切さが伝わるように関わった。少しずつ聞こうとする姿が見られてきた。 〇教師が幼児の思いや言葉を先読みしすぎず、幼児から伝えてくることを待つように心がけたことで、自分から伝えてくるようになった。また言葉での表現だけてなく、ジェスチャーなど色々な表現を認めていくことで、何を伝えたいのか、互いが相手の立場になって考えようとする姿も見られてきた。どうやって言うといいのかを伝えると共に、相手の立場になって考えることの大切さも繰り返し伝えていきたい。 〇豊かな生活体験ができる環境構成については、幼児が考えた遊びを大切に取り上げながら、興味に合った環境構成を展開していくことがおおむねできた。幼児が自ら考え工夫するための環境構成、教材準備については、発達年齢に合わせもっと研修をし、幼児が心を動かされるような遊びを見つけられるようにしていく。 〇一人一人の幼児の内面や背景にせまり、気持ちに寄り添いながら、失敗や間違いにとらわれることのないようにその子に合った支援を考え、職員間の共通理解のもと、取り組んでいきたい。	

重点４	支えあい協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
成果と課題	〇保護者に対しては、日々の活動やねらいなどをホワイトボードに書いたり、写真を掲示したりして日々の様子を伝えた。また、直接話をし、子どもの成長を一緒に考え合える関係作りを心掛けた。共に幼児を見守り、成長を喜び合うことができた。今後も、保護者の不安や悩みを聞き、思いを認めていくことを第一にしながら、教師の思いも伝え、一緒に考えていけるようにしていきたい。また、どの保護者にも関わりが持てるよう、話しかけるきっかけを逃さないようにする。 〇園行事などを地域の方に手伝ってもらったりするなど、様々な交流の機会を通じて触れ合うことができた。その都度、地域の人に見守ってもらっているという温かさを感じたり、感謝の気持ちをもったりできるように関わった。 〇園外保育の際、地域の人への挨拶を教師が率先して行うことで、幼児も一緒になって行う姿が見られ、地域の人に親しみの気持ちを持つことができた。 〇毎月の避難訓練など、幼児自身が自らの命を守る行動ができるようにしていくことができた。家庭や地域に安全教育の意義を発信し、連携して取り組んでいきたい。 〇キャリア教育の視点をより明確にとらえたうえで、中学生との交流や地域のボランティアの方々との具体的な活動につなげていくことが課題である。 〇食育活動や行事の中で取り入れた日本の食文化や他国の家庭料理を、その都度保護者に紹介し、食を通して、互いの国の文化を知りあうことができた。より一層、保護者の参加する行事を交流の大切な機会と捉え、触れ合ったり、知りあったりできるような遊びを子どもと共に楽しめるようにすることで、保護者同士のつながりを深めていきたい。	

２　改善方針

重点１
〇食への関心をより高めるために、野菜の栽培や、クッキングなどを計画的に行い、食育活動を充実させていく。（年間計画作成・確認・点検）
〇雨の日などにも体を動かして遊ぶことができるよう、遊戯室などの使い方を工夫する。また、園庭にもサーキットコースなど幼児の発達に応じた教材を設定していく。また、遊びの中で、体をほぐす動き、筋力をつける動きを組み合わせるなどの活動を意識して取り入れていく。1日５分でも体を動かす活動を継続して取り組むようにしていく。
〇地区内で自然に触れられる場所を開拓し、園外保育をより充実させ、地域を知ったり、交通マナーを学ぶ機会を計画的にしていく。
重点２
〇異年齢交流の充実を図るために、自然な交流だけでなく、計画的な交流をもっと取り入れ交流が深まるようにしていきたい。
〇子どもたち一人一人を認める関わりを大切にすると共に、遊びの中で達成感や満足感を味わうことができるよう遊びを工夫し、一人一人が自信を持ち、素直な気持ちを伝えられるようにしていく。

重点３
〇話を聞いてもらった時の喜びを感じたり、相手の立場になって考えたりすることで、話を聞く態度が身についていくように指導していく。また、聞く姿勢が保てない幼児の姿もあるので、体つくりもしっかり取り入れたい。
〇自尊感情を高め、互いを認めあう大切さを感じられるように、絵本を積極的に活用し、豊かな心情を育むことができた。今後は絵本の魅力や読み聞かせのよさを、講演会などを通し、家庭にも啓発していく。

重点４
〇研修については、講師を招聘して、公開保育、人権教育、特別支援教育に関する研修を年間８回行うことができた。専門的な指導もいただき、日々の保育に生かせたことも多く成果が見られた。また、還元学習も回数は少ないが取り組めたので、今後も続けたい。また、園内研修では、教師の専門性をより高めていくために、遊びの様子をビデオに撮影するなど、研修方法を工夫し、自分自身の保育を振り返ったり、他のクラスの指導を見る機会を設けたりし、教師の幼児の見方や援助の在り方を討議していきたい。
〇幼児の姿や日々の保育内容を職員間で出し合うことで、一人一人の性格や、特性、一人一人の発達に合った指導など職員間で共通理解を持ち、職員全員で幼児を見守ることができた。教職員の連携を大切にし、支援の方向性を一致させていくことを引き続き取り組んでいく。
〇地域の方々との交流では、教育効果をより高いものにするために、事前の打ち合わせや、反省・情報交換を綿密に行っていく。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　三重西　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	基本的生活習慣の定着	3
成果と課題	・身支度など困った時やわからない時は、必ず「聞く」ということを伝えてきた。その都度丁寧なかかわりを続けていったことで自信を持ってできるようになった。しかし、生活習慣の定着には個人差があり、一人一人に応じた指導を継続していく必要がある。 ・手洗いうがいについては、習慣化しているが丁寧さに欠けるところがある。 ・園では野菜を育て、苦手なものでも食べようとする意欲があらわれてきているが、家庭では食べずにいる幼児もいる。家庭への働きかけの工夫が今後も必要である。 ・あいさつ、自分のことは自分でするなど教師からの言葉がけがなくても「やろう」とする姿が見られるようになった。しかし、長期休暇後には意欲が下がっている姿があるので、家庭への働きかけや支援をしっかりと今後も続けていくことが大切だと思う。 ・園外保育へ出かける計画が不十分であった。歩くことを楽しんで活動できるような取り組みを計画の時に細やかに入れ込んでいくべきだと感じた。	

重点２	遊びの中で育つ子ども達	4
成果と課題	・さまざまな場面で子ども自身が思いを出していくことを大切にし、話すことを楽しいと感じられる子どもを育てることができた。 ・自分達で遊びを組み立てたり、みんなで一緒に進めていく楽しさを感じられる幼児を育てることができた。3学期には大人が遊びに入らなくても自分達で遊びを進められるようになり、話し合い相談し合いながら遊ぶ楽しさを感じられるようになった。 ・2学年が一緒に過ごす時間を多く持てたことで友だちや周りの人への関心を引き出せた。 ・ペア活動をたくさん取り入れることで年長が年少の思いを聞いたり、手伝ってあげる機会が増え、人間関係を育むよい経験になった。また、遊んでいる時も異年齢の存在を意識したり欠席している友だちを気にかけたりする姿も多くみられるようになった。 ・読んだ（読んでもらった）本の内容を友だちと共有したり教師に伝えたりすることで感情を共有することができた。 ・今後も遊びの中での育ちについて研修を深め、子ども達に合った支援や環境設定等をしていきたい。	

重点３	家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり	3
成果と課題	・地域の方との触れ合いをたくさん持つことができた。 ・地域へ園だよりを回覧してきたことで、教育内容や活動を具体的に伝えていくことができた。 ・小中・地域との連携を通して活動することができた。 ・小学校が隣で子ども同士かかわりを持つことは時々あるが職員間のかかわりは少なく感じられる。 ・中学校区の学びの一体化では参加はするが中学校と幼稚園の繋がりがうすく、表面的な交流になっているように感じる。中学校とのかかわりがうすれてきているので今後見直していくことをしていきたい。 ・家庭環境などで配慮を要する園児の対応策として、小学校とも密に情報交換しながら解決方法を考えているが解決することはなかなか難しい現状である。今後も引き続き連携をとっていく必要がある。 ・未就園児の遊ぶ会の活動を充実できるよう見直したことで安定した参加者があった。	

２　改善方針

・子育てに不安を持っていたり、精神的に弱い保護者が多くなってきているため、その不安や弱さが子ども達の行動に負の要因としてはたらくことも多い。
・基本的生活習慣の食育活動に、園だけでなく家庭と連携を取り、保護者に意識を持ってもらえるよいうな機会を持つ。
・教師自身が子どもをしっかりと見て育ちを捉えていき、関係機関とも連携を取ることができた。しかし、保護者の理解を得ることが難しかったので今後は保護者を育てることを考えていけるようにしたい。
・保護者支援の工夫をするとともに、保護者の立場になって考えていけるようそれぞれの家庭環境や抱えているものが何なのかをつかみ、寄り添っていけるようにしたい。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　楠北　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	**自立**　基本的生活習慣の定着	3
成果と課題	・教師が一人一人の名前を呼びながら笑顔で明るく挨拶をすることで、幼児も友達同士で挨拶を交わすようになった。教師との関係づくりなど幼児が挨拶をしたくなるような環境づくりについて、改めて考え取り組むことができた。 ・生活習慣を身につけるための環境設定の工夫をしたり、個別の支援の仕方を工夫したりと取り組みを深めることができた。 ・教師も積極的に戸外で体を動かして鬼ごっこなどを楽しむことで、戸外で遊ぶことを楽しむ幼児が多かった。ボール遊びや固定遊具、巧技台などより様々な身体の動きができるような活動にも取り組んでいくことが必要だった。 ･偏食の幼児が多かったため、楽しく食事ができるような雰囲気づくりをして、嫌いな物を少しずつ食べてみようとするための取り組みをしてきた。そのことにより、食べられるようになったことを喜び、自信を持てるようになった。 ・さまざまな遊びを通して友達とつながることができるよう取り組んできた。楽しさを共有したり、トラブルを解決したりする中で自分の思いを伝えたり、相手の思いに気付いたりする機会を作ってきた。	

重点２	**意欲**　元気に遊ぶ（学ぶ）力の育成	4
成果と課題	・幼児が工夫したところ、気づいたことなどに共感したり、がんばっている姿を応援したりすることで、遊びへの意欲を高めることができた。また竹馬、跳び箱、なわとびなどそれぞれが目標をもって継続して取り組むことで、達成する喜びを感じさせることができた。 ・運動会、お店屋さんごっこ、発表会などでは幼児が自分の考えを伝え合い、認め合いながら意欲的に取り組むことができた。幼児の興味化や関心に応じて、自分で工夫して発展させていけるような教材、空間を準備することで、様々なごっこ遊びを十分に楽しみ、遊びの中での学びが深まった。また、異年齢の交流をすることで、4歳児の遊びにとって良い刺激になった。 ・幼児が意欲的に遊ぶための環境づくりに関する園内研修が少なかった。「自ら選んでする活動」についての園内研修を行い、年間の見通しをもった取り組みや発達に応じた遊びなどについて研修を深めることが必要である。	

重点３	**協同**　豊かな心の育成	3
成果と課題	・聞く力、話す力の育成を視点にしたカリキュラム作りが十分にできていない。教職員一人一人が考えているねらいや取組を検討し合い、振り返りを行うことが必要であった。「聞く」ことに課題があったため、様々な援助の方法を考えて取り組んできたことで、「聞く力」がついてきた。 ・ごっこ遊びを充実させることで、友達と一緒に楽しさを共感し、互いにアイディアを出し合いながら遊んだ結果、自分の考えを伝えたり、友達の思いに気付いて受け入れたり、幼児同士で話し合ったりすることができた。それらの取り組みを通して仲間意識を深めていくことができた。これらの取り組みを実践報告にまとめ、園内研修を深めるとよかった。	

重点４	地域・保護者との連携と協働	3
成果と課題	・保護者の思いを受け止め、安心してもらえるよう全職員で取り組んできたが、保護者から何でも話してもらえるような関係を築くことの難しさを感じた。教師の思いの伝え方や話の聞き方などについての研修を深めることが必要であった。 ・様々な活動で地域の人々の協力により、交流を深めることができた。そこでいろいろな人とかかわる力が育っていった。 ・今年度は中学校区で当園の公開保育があり、各校園の先生から幅広い意見をもらうことができ、幼稚園として学びになった。また当園の教育について理解してもらう良い機会になった。この研修をさらに充実させていくことで、幼稚園の教育について振り返って考える機会していくことが大切である。	

２　改善方針

・様々な教育活動を見通し、準備をして取り組みを進めてきたが、行事等に追われることも多いため、教育活動を精選し、幼児が思い切り遊び込める時間を確保していきたい。次年度はじっくり時間をかけて幼児が主体となって協同する活動を年度当初に計画し進めていく。

・地域を知り、様々な自然体験を経験できるよう、計画的に園外保育を行う。

・園内研修の時間を確保し、実践検討の充実に取り組む。

・各学年単学級であるため、園内研修や打ち合わせなどで全職員で考えを出し合いながら教育計画を立て、実践していくことが今後必要である。

【様式１】

自　己　評　価　書

四日市市立　　楠南　　幼稚園

１　園づくりビジョンの重点への取組の評価

重点１	基本的な生活習慣の自立	3
成果と課題	〇あいさつ、身の回りの始末 ・あいさつは二学期後半から自らする幼児が増えてきたが、仲の良い友達に限られていたり、教師からの声掛けが必要なことも多い。教師の働きかけや、家庭との連携を更にすすめていく必要がある。 ・子どもの姿から職員が話し合い、課題を見つけ、丁寧に対応することができた。その関わりの中で、片付けや衣服の着脱など自分でできることは自ら進んでしようとする姿が増えるなど、基本的な生活の習慣が身についてきた。しかし、朝の身支度などに時間がかかってしまう姿もあり、身支度などが進みにくい幼児への、環境や動線の工夫が更に必要であった。また、園では身についてきた生活習慣も、保護者アンケートでは「あまりそう思わない」が20%おり、保護者と連携をとっていく必要がある。 〇集団生活の約束 ・みんなと一緒に活動する楽しさを感じ、意欲的に取り組む姿が見られるようになった。クラス全体の片付けなどにも一生懸命取り組んでいる。しかし、一方で、個人のロッカーなどの整理整頓が苦手な幼児もいるので、自ら環境を整える力や、物を管理する力をもっとつける必要があった。	

重点２	健康な身体づくり	4
成果と課題	〇早寝早起き朝ごはん ・生活のめあてカレンダーの活用、たよりでの啓発などの取り組みを通して幼児・保護者の意識を高めることができてきた。しかし、少数ではあるが、朝の登園が遅れがちであったり、遅くまで起きていた為体調不良を訴える幼児もいる。家庭背景等も配慮しつつ、更に働きかけが必要であった。 〇食育推進 ・栽培活動や収穫祭(クッキング)など、自分達で育てたものを、みんなで一緒に食べる活動を通して、随分と偏食が減ってきた。また、苦手なものに対して、自分から食べてみようとする意欲も育ってきた。給食の配膳の工夫をすることで、食べ切れたという自信にもつながった。 ・その一方で家庭ではなかなか苦手な物を食べないという声も保護者から上がっているので、引き続き、親子クッキングなどの親子で料理をしたり、一緒に食べる機会を提案していきたい。保護者アンケートでも「きらいな食べ物でも食べようと努力する姿が見られますか」と、いう問いに対して「そう思う」「おおむねそう思う」との回答が95%を占めていた。 〇運動遊び ・ごっこ遊びを取り入れた運動遊びや、雨の日の巧技台を使った遊びなど、環境の工夫を行う中で、体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようになった。また、竹ぽっくりや竹馬などに根気よく取り組むことができた。 ・しかし中には戸外での活動に教師の声掛けがないと参加しにくい幼児もいる。戸外遊びへの環境の工夫や、教師の働きかけの工夫が更に必要であった。	

重点３	思いやりの心の育成	3
成果と課題	〇自己表現 ・分からないこと、困っていることを教師や友達に知らせる力をつけることができた。初めは、生き生きと自分の思いを出せる4歳児に対して、年長だからと我慢したり、素直に自分の思いを出せない５歳児の姿も見られた。５歳児だけで活動する取り組みや、運動会や発表会などで、話し合う経験を重ねるなかで、自分の思いを伝え合う力が身についてきた。 〇自尊感情 ・４，５歳児が同じ時間を過ごす中で、互いに思いやる自然で温かい交流が見られた。年長児は優しさ・たくましさが感じられ、年少児は年長児に親しみ・憧れる気持ちを持って接する姿があった。 ・教師が一人一人の幼児の思いを受け止め、関わっていくことで、自分が大切にされていることを感じ、自信をもって生き生きと活動できるようになった。 〇聴く力話す力 ・聴く力については個人差はあるが、日々の取り組みの工夫の中で、聴こうとする力が身についてきた。聴く姿勢については今後も取り組みが必要である。 ・話す力についてはクラスのみんなの前で話す活動を取り入れる中で、随分と力がついてきた。しかし、遊びの中で、気持ちを伝え合う場面などではまだ教師の援助が必要であることが多く、言葉で思いを伝え合う力をつけていく必要がある。保護者アンケートでも「相手にわかるように話したり、表現したりするようになりましたか」と、いう問いに対して「あまりそう思わない」との回答が１０パーセントあった。	

重点４	保護者、地域に根ざした幼稚園	3
成果と課題	〇子育て支援 ・家庭との連携を大切にし、日頃から園での子ども達の姿や成長を伝え合うことで、信頼関係を築くとともに、必要な支援につなげることができた。また、担任だけでなく、どの職員も温かな雰囲気づくりに努めることができ、保護者が相談しやすい環境をつくることができた。保護者のアンケート(記述)でも「子どもに寄り添う保育をしてもらっている。送り迎えにおいても子どもだけでなく、親の私も温かい気持ちになる対応がとても嬉しい。」などの意見があった。 〇地域交流・人とのふれあい ・地域の祭りに関連した取り組みを保育に位置づけたり、さつま芋を地域の方と一緒に育てる食育の活動を行ったり、地域の方の力を生かした親子クッキング・おりがみ教室を行うなど、地域と継続した温かい交流を持つことができた。 ・保育園や小学校・中学校との計画的な交流を通して、色々な年齢の友だちと関わり、親しみを持つことができた。 〇情報発信 ・ホームページやお便りに写真などを紹介し、言葉だけでなく、見て取り組みがわかりやすいような工夫をし、幼稚園の様子を積極的に発信することができた。地域への回覧板などにもその様子を知らせる工夫ができると、更によかった。	

２　改善方針

重点１「あいさつ、身の回りの始末」
重点４「子育て支援」
　重点１については、幼児・保護者の意識が高まるように、具体的な方策を日々伝えていくとともに、学級懇談会など、保護者同士が子育てについて話し合える機会をつくっていく。
　また、学級懇談会などの取り組みをすすめる中で、重点４についても、保護者同士が、互いに知り合い、つながり合える機会をつくっていく。

重点２「食育推進」
　次年度は、外国籍の幼児や、支援を必要とする複数の幼児が入園する。互いの食文化などに配慮しつつ、更に食育の取り組みをすすめていく。

重点３「聴く力話す力」
　自己主張だけでなく、相手の思いも汲みながら言葉で伝え合えるよう、教師が間に入りながら、丁寧に幼児一人一人の思いを受け止めていく。また絵本や劇などを活用することで、視覚的に理解しやすいよう工夫をし、具体的にどうすればいいのか伝えていく。